製作せしを始めとし、明治五年に至り政府の保護を得て甫めて海外に輸出し、又河瀬村は遠く貞治年間に始り今日に及んだ。販路は海外は米國を主とし、英、佛、露、南洋及支那等、内地に京都、大阪、東京其他温泉地の土産品として販賣せられて居る。

	生産者	
籐バスケット	犬上郡河瀬村	野村善造
蔓土瓶敷	同　大瀧村	澤田藤三郎
籐製屑入籠	甲賀郡水口町	中田岩松

◉棕梠製品　年産額　三十五萬圓

蒲生郡を主産地とし下駄表及棕梠箒を製産し、全國各地に販賣して居る。

	生産者	
棕梠箒	蒲生郡朝日村	山口常三郎

◉麻織物　年産額　五百六十萬圓

愛知、犬上、神崎、坂田郡を主とし、其の他各郡に亘り享保年間に始り、漸次隆盛となつて今日に及んだ。販路は京阪地方を主とし九州、四國、名古屋、東京方面である。

	生産者	
白御園上布	神崎郡五ヶ莊村	猪田與左衛門
錆上布	愛知郡日枝村	辻太三郎
紺絣	同	藤野喜太郎
白絣	同	松林源二郎

◉羽織紐　年産額　六萬圓

大津市、滋賀郡、伊香郡地方に行はれ、市街地又は農家子女の副業として行はれ、販路は京都、大阪及東京地方である。

	生産者	
樂器糸	伊香郡七郷村	森田甚之助

◉樂器糸　年産額　三十萬圓

伊香郡を主産地である、同地方は古來から樂器原料糸の製産地として名がある、爲に優秀の原料で製造されし樂器の糸は又優良である、年毎に販路が增加して東京、京都、大阪の外遠く支那、印度等に輸出するやうになつた。

	生産者	
眞綿	伊香郡余吳村	橋本參祐

◉眞綿　年産額　六十五萬圓

坂田郡を主産地とし漸次各郡に製産されて居るが、其の創始は明らかならざるも古くから婦女子の副業として行はる。販路は東京、大阪、京都が主である。

角及摘眞綿	坂田郡息長村	山脇勝治郎	
角及袋眞綿	同	北澤清七	
同	同	庄川利八	

◉藁工品　年産額　百二十萬圓

滋賀、甲賀、伊香郡を主として、全縣下に分布し奬勵の結果、年々製産增加を示し、京都、大阪、神戸に販賣する外北陸、岐阜、愛知、三重等にも販出して居る。

生産者			
厚手莚	滋賀郡雄琴村	高阪市太郎	
荷造莚	同　眞野村	川端しま	
磨繩	同　坂本村	山口小きく	
春繩	栗太郡大寶村	竹内藤治郎	
再製繩	甲賀郡宮村	藤川常吉	
同	同	大木金治郎	
同	同	辻善三郎	
莚	蒲生郡南比都佐村	南比都佐村信用購買販賣組合	
藁繩	伊香郡	伊香郡副業組合聯合會 森田重郎	
硫海叭	伊香郡	伊香郡副業組合聯合會 織田適蔵	
藁繩	野洲郡中里村	中里村農友會藁繩出荷部	
スベ箒	宇賀郡伴谷村	村井儀一	

◉桑苗　年産額　十八萬圓

坂田、愛知、東淺井、犬上、伊香を中心として各郡で育苗して居る、今や約參百萬本に達し殆んど全部縣内に使用されて居る。

生産者		
	栗太郡葉山村	池田德治郎

◉木炭　年産額　百五萬圓

本縣の製炭は、山間部の副業の主位を占むるもので、約壹千年前から行はれてゐる。高島、伊香、甲賀、栗太郡を中心に製産は殆んど各郡に製産せられて居る。販路は縣内の外大阪、京都、名古屋等の大都市である。

生産者		
	滋賀郡葛川村	上田定治郎
	高島郡三谷村	岩淵三藏
	同	安本勘治郎

◉疊表　年産額　十四萬圓

八幡表として古から知られて、蒲生、甲賀を中心に製産せられ、縣内、京都、大阪、

神戸に販賣せられて居る。

生産者　蒲生郡島村　雪吹治三郎
同　金田村　吉井庄治郎

◉青花紙　年産額　一萬八千圓
本縣での特種副業品で、栗太郡に於て製産せられて、京都市に販賣されて居る。
生産者　栗太郡山田村　木村榮之助

恭賜皇室御下命之光榮

素麺は三重の糸

年産五拾七萬圓

原料は國産小麥營養分と消化率に富むこと天下一品

三重縣三重郡

有限責任六矢知信用購買販賣組合

月刊雜誌

副業

副業研究の機關誌
副業經營の好資料

定價一部三十五錢

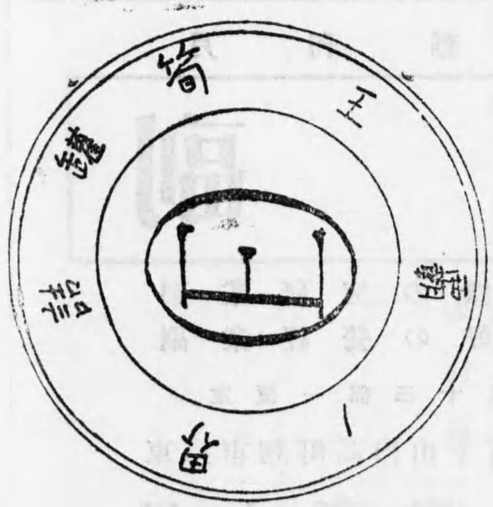
東京市麹町區内山下町一ノ一

日本産業協會

京都府乙訓郡大枝村

合組用利賣販買購用信枝大 有限責任

元賣發造製



京都府乙訓郡大枝村ハ竹ノ名産地デアリマスカラ他ノ地方デモ大枝村ノ竹ト云ヘバ直チニ品質ノ良ナルコトヲ想ヒ出シ其内デモ品質ノ優良ナル点ニ於テハ他ノ追隨ヲ許サヌ程ノ技術ニヨリ加工シテアリマス

京都府

◉竹製品　年産額　八十萬圓

府下は優良なる竹林に富み、其の面積四千町歩に達し、年々三十餘萬束の竹材を産し、材料頗る豊富なるも之が加工は比較的顧られず、其の生産は一部分に限られしが近年漸次發達の緒に着き、主なる製品は竹籠類、竹箒、竹箕、簾等で、輸出向製品と内地向製品とあつて輸出向製品は乙訓及南桑田の兩郡、京都市が最盛であつて、乙訓郡は明治四十三年講習會を開催し、爾來從業者を増し、南桑田郡は其の起源古く千歳村、保津村は最も盛である、内地向製品は各郡共多少は製造するも熊野、南桑田兩郡は最も盛である、而して與謝郡は近時竹細工熱頓に揚り、殆ど各町村に於て講習會を開催せられ將來十分發達の見込がある。簾及竹箒は紀伊郡伏見町が最も盛であつて、頗る古い歴史を有して居る。販路は内地向製品は全國に及び、輸出向製品は直接輸出をして居る。

生産者　京都市三條大橋東四丁目　森田新太郎

◉鹿子絞(手拵)　年産額　百五十萬圓

鹿子絞(手拵)は婦人頭髪飾に用ひられ、他の衣服用鹿子絞と共に農家の婦女子が問屋

から原料(生地、括り糸)の供給を受け加工する副業で、其の起源は頗る古く、古代絞の藏せらるゝを見ても古きものたることを知るに足る。絞りの模様に依つて疋田絞、京極絞、麻葉絞、柳葉絞等あり、山城一圓は之が從業盛で、頗る優良品を製造して居る、大正八九年頃經濟界の好況時代は最も盛況を呈せしも、現今は稍不況の觀がある。販路は內地は固より遠く滿鮮地方にも及んで居る。

生　産　者　京都市五條通富小路西入　松尾喜七

◉市原式製莚機　(市原式莚縱專用製繩機)　年產額　一千臺

兩機共生產者の考案に懸り、生產者は早くから農蠶具殊に蠶具の製作を業とし、製莚機の製作に傾注して考案し構造簡易且つ堅牢で、使用容易なるを以て歡迎せられて實用新案特許品である。製莚に當つて當業者が其の縱繩製造の煩を虞ひ、考案せしものは莚縱製造專用製繩機である、行程頓る良好なるを以て歡迎せられ、實用新案特許品であつて其の販路は山城、大和である。

生　産　者　京都市千本通出水西入　市原寅次郎

◉筍罐詰　年產額　七十萬罐

府下は孟宗竹林一千町步を超へ、筍二百萬貫を突破して居る、就中乙訓、苗野兩郡は最も多く、之が最盛時期には其の販賣上に頗る困却するので、加工の必要を認めしかば始めて製造したものである。現在農家の共同經營に依つて製作するもので、全部乙訓郡で生產されるのである。其の販路は京阪地方を主とせしが、近時は東京方面に出荷するに至つた。

生　産　者　乙訓郡大枝村　有限責任大枝村信用販賣購買利用組合
同　大原村　大原村共同罐詰組合
同　新神足村　長岡農振會

◉藤　箕　年產額　一萬圓

從來綴喜郡多賀村のみで製造せられし原料である、藤との關係があるので平地部には從業し得ず、京都府下及滋賀縣下に搬出せられて居る。

生　産　者　綴喜郡多賀村　谷岡未造

◉山城莚　年產額　百萬枚

山城莚は一名薪莚と稱し、京都府綴喜郡田邊町字薪は其の發明地である。同所は其の昔一休禪師在世中區民に製莚のことを傳授せられしに始まると云ふ、而して其後附近各村に擴張され、現在は綴喜郡田邊町、大住村、草內村、三山木村、相樂郡狛田村、祝園村、稻田村、山田莊村、相樂村で生產して居る。販路は主として大阪市場である。

生　産　者　綴喜郡田邊町字薪　中尾新五郎

◉薪一休納豆　年産額　五千貫

綴喜郡田邊町字薪に産し、其の起源詳ならざれ共、一休禪師に基因するものゝやうである、本品は餘程の年月を經過しても腐敗變味しないのを特徴として居る。全國各地は固より滿鮮地方に通信販賣の方法をとつて居る。

生　産　者　綴喜郡田邊町字薪　河村源八

◉煎　茶　年産額　山城地方で百萬貫

南山城地方は所謂宇治茶の本場で、數百年來の古い歴史を有し、品質優良なる內地向需要茶として、汎く內外に知られて居る。

生　産　者　相樂郡高山村　高山村茶盛會

◉蒟蒻玉　年産額　府下で約二十萬貫

殆ど全部桑園或は茶園を利用して栽培して居る、其の起源は不明なるが、天田郡下夜久野村、上夜久野村、上川口村、川合村、相樂郡上、中、下和束村、高山村、綴喜郡多賀村、竹野郡竹野村等を主産地とし、天田郡下夜久野村字千原産は千原玉と稱し、其の品質が最優良なので知られて居る。主として大阪地方に販賣せられて居る。

生　産　者　相樂郡高山村　兜岩庄八
天田郡下夜久野村千原　荻野滿雄

◉割　箸

天田郡上豐富村字樽水にて生産する、大正十三年割箸教師を聘して教習せしが始めである、其後割箸製造組合を設立して盛に製造して居る。販路は地方に於ける小都市であるが、其の需要頗る多く漸次の擴張の見込である。

生　産　者　天田郡上豐富村樽水　足立熊吉

◉竹製割箸

天田郡川合村にて創始せしもので、農村振興の意味に於て地方に多量に産する竹材を利用して他地方では未だ其の例を見ない、竹製消毒割箸を考案製造するに至つた、現在副業組合を組織して農閑を利用して盛に製造し、全國に販路を開く爲め努力しつゝあつて、質强靭清潔で廢物の利用にも適するのである。

生　産　者　天田郡川合村　川合村副業組合

◉栗（丹波栗）　年産額　二千石

府下各郡に産すと雖、天田、何鹿、船井郡が最盛である、所謂丹波栗で山地或は空廢地を利用して栽培せられ、實の大形優美を以て需要多く、其販路は京都市場が主である。

生　産　者　天田郡川合村　東仁左衞門
同　河內久吉

◉眞綿　年產額　二千貫

丹波福知山附近は古來福地山眞綿と稱して相當多量に生產せしものであるが、蠶業の發達と共に稍沈靜の觀があり、現在では天田郡が最も產額が多い、地方生產のものは福知山町、綾部等に集め各地に販賣して居る。

生產者　天田郡庵我村　大島市藏

◉藤表

漁村振興の意味に於て、竹野郡下宇川村漁業組合主催で十三年に講習會を開催し、始めて製造するに至つたものである。將來漸次發達する見込である。

生產者　竹野郡下宇川村　花光英作

何レモ新案特許市原式
製繩機械
細繩專用
製繩機械
製莚機械
稻扱機械
養蠶用諸機
製糸機械
蠶種人工孵化器
製作
發賣元
京都市上京區出水通千本西入
市原製作所
電話西陣　一九六七番
電略（イチ）又ハ（イ）
振替大阪四一九三五番

各國繩莚菓工
產荷
品品品
屋問

清山德治郎商店
京都市外伏見町字東大文字丹波橋北入
電略（セ）又ハ（セヤマ）
電話（番）

京都府
醸造用
醸造用
醸造用

日に於ては其の製造戸數百二十戸に達し、明治二十九年二月河内素麺製造組合を組織し、四十一年三月之を同業組合法に依り、河内素麺同業組合と改め、製造は主として京都方面に販賣せられ、品質優良を以て名聲を博して居る。

生　産　者　北河内郡津田村　岡本喜一郎

◉管細工　年産額　五萬圓

管細工は天保年間市内東成區神路町の沼田に簇出せる管を採取し、之が製作を試みたるに始まり、爾來製作者の苦心研究の結果、今日の如き精巧緻密体裁優美のものを製造するに至り、需要急に加はり、明治十七年初めて海外輸出を試みしが頗る好評で、今日では製品の大部分は歐米各國に輸出せられて居る。

生　産　者　中河内郡布施村大字東足代　鹽川正三

◉妻楊枝　年産額　十萬圓

明治十六年南河内郡高向村垣内清太と云ふ者大阪市東區平野町春川某に妻揚子の原料たる宇津木を送り之が製造に關し研究せしが、交通不便にして輸出に要する費用甚だ多く寧ろ自村内に於て製造するの得策なのを知り、遂に職人として春川某を聘し、之が製造に着手せり、當時此の地方農家は副業としては唯織布のみなりしも妻揚子の製造に着手する者急激に増加し、現在は同村全体並隣村に迄普及し好個の副業となるに至つた。

生　産　者　南河内郡高向村　村農會

◉簾　年産額　十萬圓

南河内郡新堂村及長野町に於て、明治元年頃より粗末な簾を製し日除用として附近に販賣したのを以て嚆矢とし、爾來年を經ると共に漸次工夫改良し、今日にては種々意匠を凝した高尚優美の製品を見るに至り、從て販路も日本内地は勿論海外に迄輸出するの狀況となつた。

生　産　者　南河内郡新堂村　杉多三治郎
　　岸和田市　西ノ内房吉

◉竹籠　年産額　二十五萬圓

南河内郡新堂村、北河内郡川越村は古來竹籠の製造が盛んで、産額相當多かつたが創業の起源詳かでない、今日の盛況を見るに至つたのは舊藩主の奬勵が與つて力あつたやうである。

生　産　者　南河内郡新堂村（京德）　京村德太郎
　　泉北郡久世村（竹房齋）　前田房二郎

◉柳行李　年産額　十萬圓

淀川左岸に位する三島郡溝昨村、鳥飼村、富田村等は古來杞柳の栽培盛なりしが、其の生産品は全部原料の儘で他地方に販賣した、然るに今より二十年餘前溝昨村大字日垣井上富三郎なる者、之が製造を志し但馬より職人を聘し製造を開始して以來、年を經ると共に漸次近村に普及し、柳行李製造に從事するもの多くなるに至つた。

生産者　三島郡溝昨村　井上富三郎
同　玉櫛村　奥安太郎

◉硝子玉　年産額　四百萬圓

明治十七年頃泉北郡伯太村大字池上南友治郎なる者硝子念珠製造の傳授を受けしに始まり、當時は單に京都及高野山等の佛用に供するに過ぎなかつた、爾來種々苦心研究の結果、眞珠、瑪瑙、翡翠、珊瑚珠等を模造するに至り、需要は增加し販路は擴張され内地は勿論歐米各國に輸出せらるゝに至つた、現在は泉北郡内の信太、伯太、南王子、鶴田等各村に於て農家主要の副業となつた。

生産者　泉北郡信太村　米田若松

◉刷子　年産額　四百萬圓

市内鶴橋町、豐崎町、中河内郡英田村等は婦女子の副業として刷子製造頗る盛である。其の沿革は詳でない。製品は日本内地は勿論、支那、南洋方面に盛に輸出せらる。

生産者　中河内郡英田村　高田淺治郎

◉貝釦　年産額　五萬圓

中河内郡大正村、楠根村其の他各町村に少量宛生産せられてゐる。製品は内地は勿論支那、南洋及歐米諸國に輸出されて居る。

生産者　中河内郡楠根村大字稻田　辻本五郎平

◉燐寸箱　年産額　四十萬圓

明治二十五年頃中河内郡八尾町に燐寸製作所創立と共に小函の仲繼業を始むる者を生じ、之が製作を附近の農家婦女子に求めたるに起因す、當時は其の製作に不馴の爲め工賃甚だ薄く、從業者も少かりが、燐寸の需要逐年增加し海外に輸出せらるるの盛況を見るに至り、製造者頓に增加し、中河内郡は固より南河内郡丹南、丹北、藤井寺、富田林、高鷲等の各町村に迄普及し、家庭に於ける婦女子の好副業となるに至つた。

生産者　南河内郡西浦村　内本宇三郎
同　高鷲村　林角治郎

◉木炭（輕便炭）　年産額　十五萬圓

豐能郡東能勢、見山、清溪、止々呂美の各村は副業として製炭の業盛で、製品は全部池田町に集り、大阪市に販賣されてゐたが、大正八年十一月池田町に池田木炭株式會

社設立せらるに及び斯業益々發展し、現在に於ては煙草盆用輕便炭をも製造し、各方面に販賣して居る。

生　産　者　　豐能郡池田町　　池田木炭株式會社

◉木　櫛　年産額　六十萬圓

泉南郡貝塚町及北近義村地方は古來木櫛の製造盛で、其の起源は遠く欽明天皇の御代である、爾後幾多の盛衰ありしが明治三十四年に至り、商業組合なる木櫛組合の設立を見、現に製品は内地は固より支那、印度、朝鮮方面にも輸出せられてゐる。

生　産　者　　泉南郡北近義村　　田中房太郎
　　同　　貝塚町　　小司駒太郎

◉履物表　年産額　五萬圓

泉北郡南王子村は古來婦女子の副業として下駄表の製造行はれ、百餘年前迄は手造荒生地の儘にて大阪市場に販賣せしが、其の後東京地方より精製方法を傳習し、一大改善を加へしに大に好評を博し、他の製品を壓倒し、關西に於ける信太表は關東に於ける南部表と相對し、斯界の覇王たるに至つた。

生　産　者　　泉北郡南王子村　　阪口初雄
　　大阪市東淀川區國次町　　辻本善次郎

◉麻　繩　年産額　三萬圓

豐能郡小曾根村に於ては、明治十年頃より農家副業として麻繩の製造を始め、之を大阪市場に販賣したるに賣行良好で、漸次隣村にまで普及し、製品は大部分大阪市場に販賣してゐる。

生　産　者　　豐能郡小曾根村　　深田富松

◉飯櫃桶　年産額　一萬圓

府下三島郡富田町の特産品にして、品質優良保温特に良好なので、製品は京都、大阪、神戸の各方面に販賣されて好評を博してゐる。

生　産　者　　三島郡富田町　　高科喜太郎

◉藁　繩　年産額　五十萬圓

三島郡富田、鳥飼、宮島、春日、山田及北河内郡蹉跎村等の各町村は府下農村に於ける製繩の最も盛なる地方である。何れも品質最も良好で、大阪市場に於ては最上等品として取引せられてゐる。

生　産　者　　三島郡玉櫛村　　小西豐治郎

◉子守桶　年産額　五千圓

中河内郡矢田村、瓜破村は子守桶の特産地である、製造に特別の技術を要し、産額製

造戸數共に少いが、製品は大阪市場に賣行頗る良好で、將來益々發達の見込である。

生　産　者　　中河内郡矢田村大字富田　　渡中熊次郎

◉玩　具　年産額　三百萬圓

大阪市内の婦人の内職として、玩具の部分的製作に從事し、工賃を得るもの實に莫大である、玩具種類に至りては總ての種類を網羅し、製品は日本内地は勿論海外にも盛に輸出されてゐる。

生　産　者　　大阪市東區豊後町四番地　　松本信太郎
　　泉南郡上之郷村　　東安太郎

◉芦部織　年産額　三百萬圓

泉北郡東陶器村、深井村、踞尾村等に於ては芦部織の製造近年盛になつた、即ち大正十二年頃緞通の輸出不況と共に、片布屑布を以て芦部織を製織し輸出したるに、外見雅美堅牢にして歐米人の嗜好に適し、漸次輸出の隆盛を見るに至つた、現在は同地方の農家婦女子の副業として盛に生産せられ、製品は全部米國に輸出せられて居る。

生　産　者　　泉北郡深井村大字深井　　中尾留吉

◉造　花　年産額　百萬圓

明治二十五年頃大阪市東區南久寶寺町上村庄助なる者、花簪として簡單なる紙製造花を製したのが其の起源である、爾後此の花簪に枝葉を附し、紙に代ふるに綿絹を以て製し、之を南洋方面に輸出せしに外國人の嗜好に適し、現在は勿論盛に海外に輸出せられ、之が製造は市内婦女子の副業として實に欠ぐ可からざるものとなつた。

生　産　者　　大阪市東區平野町五丁目　　中村新次郎

◉豚肉罐詰

大正六年以降泉北郡農會の事業として養豚を奬勵せし結果、著しく其の飼養頭數を增加し、現在は成豚仔豚合して六千餘頭を算するの隆盛を見るに至つたが、不幸十三年八月府下各地に豚コレラ病大流行し、養豚業に一大頓挫を來し、豚肉の價格は著しく下落を見るに至つた、茲に於て泉北郡農會は豚肉の加工に着眼し、豚肉罐詰の研究に着手せり、十三年試驗的に少量を製造し、之が世評を求めしに頗る好評を博せしを以て特に味付の改良を研究する計畫である。

生　産　者　　泉北郡　　泉北郡農會

◉奈良漬　年産額　二萬圓

三島郡清水村は越瓜の生産地で、此の地方に於て生産された越瓜は同郡富田村に移り、此所に於て奈良漬に製し、京都、大阪市に販賣されてゐる、風味良好で特に齒切れ宜しきを以て名聲を博して居る。

生　産　者　三島郡富田町　勝田新六

◉及物　年産額　百三十萬圓

堺市は古來及物の特産地として其の名普く國内に知られてゐる、切味特に良好なのが特徴で、製品全國各地に盛に販賣されてゐる。

生　産　者　堺市大町　酒井包義

◉天鵞絨織　年産額　十五萬圓

三島郡豐川村は古くより農家の副業として下駄鼻緒用天鵞絨織盛で、製品は東京、神戸京都方面に販賣され、品質優良なので名聲高く、最近にては産額益々增加し、十四年六月茨木天鵞絨織物組合の設立を見、製品の檢査を勵行し、品質の改良に努めてゐる。

生　産　者　三島郡豐川村　茨木天鵞絨織物組合

兵庫縣

◉素麺　年産額　六百萬圓

主産地は揖保、飾磨兩郡で、古來から同地方は農家の冬期副業として製造し來つたもので、今日は播州素麺として世人に知られ、縣下重要物産の一となるに至つた。

生　産　者　揖保郡龍野町　播州素麺同業組合
姫路市　中播素麺同業組合

◉凍蒟蒻　年産額　三十萬圓

縣下の凍蒟蒻の製造は數百年以前より多可郡杉原谷村、神崎郡瀬賀村、加西郡大和村地方冬期に於ける重要なる農家副業生産品として生産してゐるもので、明治初年頃より需要益々增加し、年次生産增加を來して今日に至つた。

生　産　者　多可郡杉原谷村　兵庫縣凍蒟蒻同業組合

◉杞柳製品　年産額　三百五十萬圓

縣下生産の杞柳製品の主なるものは行李、籠類、鞄、飯行李等である。柳行李は古來より但馬圓山川沿岸地方に栽培する杞柳を原料として製造したもので、城崎出石の兩郡が之の主産地である。特に城崎郡には今を去る約四百五十年前自家用器具を製造し

た事があつて、爾來幾星霜を經て今日の盛況を見るに至つた。

生産者　城崎郡豊岡町　但馬柳行李商同業組合
　　神戸市三宮町一丁目二八　久保田商店

◉叺　年産額　一百五十萬圓

叺は其の原料が概ね自家生産に依り、且つ其の作業は比較的容易で相當收益あり、製品又需要廣く、縣下農家副業品中重要な地位を占めて居る、其主産地は神崎郡で、同地方は夙に同業組合を設置し、製品の改良統一を圖つて居る、其の他丹但七郡を除く外何れの農村に於ても、之れが生産に從事するものが多くなつた。

生産者　明石郡神出村　有限責任神出信用販賣購買組合
　　加古郡野口村　橋本義雄
　　同　母里村　松田福三郎
　　同　天滿村　北口留次郎
　　同　八幡村　田代竹松
　　同　野口村　橘欣次郎
　　飾磨郡鹿谷村　淺野仁三郎
　　神崎郡　神崎郡莚叺同業組合

◉繩　年産額　一百十萬圓

本縣に於ける繩の主産地は印南、飾磨、津名郡で、其他縣下各郡に生産しない地方はないとふ有樣である。

生産者　印南郡阿彌陀村　山本清吉

◉竹製品　年産額　八十六萬八千圓

縣下の竹製品の重なる種類は輸出向籠類其他内地向の籠、箕、簸具、唐櫛、笹、輸出向玩具笛等で、之れが製造の特に盛なのは有馬、美囊の兩郡で、多可郡の笹及唐櫛、加西郡の箕、養父、城崎郡の簸具も亦少くはない。

生産者　神戸市三宮町一丁目二八　久保田商店
　　美囊郡淡河村　藤原鶴壽
　　加西郡北條町　西南部落農會代表者　西村重三郎
　　美囊郡口吉川村　松本熊吉
　　同　北谷村　宮田兼三郎
　　同　戸田常松
　　多可郡比延庄村　藤本京太郎
　　同　岸本藤重郎

同　比延庄村　土本源五郎
有馬郡山口村　作田良三

◉羊齒細工　年産額　十五萬圓

本縣に於ける羊齒細工の製造は神戸市、明石市、明石郡、赤穗郡の二市二郡に限られ、內明石市及明石郡は其沿革最も古く、産額も亦大きく、明石市では今を去る約五十年以前から之れが製造に從事してきた樣である、其後神戸市及赤穗郡に於て製造せらるるに至り、現今に於ては生産額の半以上は海外に輸出品せられて居る。

生産者　明石市相生町五六　荒木英二
神戸市三宮町一丁目二八　久保田商店

◉算盤　年産額　八十五萬圓

縣下加東郡小野町、美囊郡三木町地方は古來算盤の製造を以て知られてゐたのであるが、副業的に生産せるは算盤顆のみで、近時世の進歩に伴ひ、機械力により專業的生産工場續出するに至り、副業的從業するもの漸減の狀態に至つた。

生産者　加東郡小野町　吉岡吉太郎
同　大部村　中塚庄太郎

◉表稈細工　年産額　九萬七千圓

縣下城崎郡城崎町の温泉地帶の商家家庭副業生産品で、各地土産品として需要多い。

生産者　城崎郡城崎町　坂本榮藏

◉壜苞　年産額　二十五萬圓

縣下の壜苞の生産は、明治二十八年津名郡に於て始め、以來三原郡其他縣下殆ど全般に普及し、一時海外輸出品として重要せられしが、現今では內地向最も多く、海外輸出は年次減少の有樣である。

生産者　津名郡佐野村　細川清一郎
同　洲本町　正井美雄
三原郡榎列村　細川嘉一郎
津名郡洲本町　淡路壜苞同業組合

◉磨テグス　年産額　一百萬圓

磨テグスの生産地は、津名郡由良町に限られ、明治十二年頃から創始以來極めて順調なる發達を來し、漁家家庭副業として盛況を呈して居る。

生産者　津名郡由良町　增田藤太郎
同　鎌田悅三

◉線香　年産額　三十萬圓

縣下線香の主産地は津名郡江井町で、其の起原は今から約六七十年以前既に同地に行はれて居たもので、明治二十七八年頃から順次好況を呈し、一般の需要増加に伴ひ、製造に從事するもの亦年次増加の趨勢である。

生　産　者　津名郡江井町　有限責任淡路線香購買販賣組合

◉疊　表　年産額　三十萬圓

縣下の疊表の生産地は、加西郡、出石郡の二郡に限られ、總生産額の八九割は加西郡西在田村の生産である。

生　産　者　加西郡北條町　高橋作治

◉眞　綿　年産額　五萬圓

縣下の眞綿の生産は、最近に始つたものであるが、現今では縣下養蠶地帶に於て盛んに製造を奬勵しつゝあるので、今後相當の生産を見るに至るものであらう。

生　産　者　朝來郡牧田村　田中源吉
同　日原米作

◉和　紙　年産額　二百七十萬圓

縣下の和紙の生産地としては津名、有馬郡地方最も盛んであつて、其他殆ど全縣下に生産せられて居る、然れども副業的に行はるゝものは約四五割で、其の他は專業的生産品である。

生　産　者　津名郡洲本町　郡彌一郎
同　井高仁作

◉トマトソース　年産額　三萬圓

明治二十年頃有馬郡有野村に於て製造せられ、最近に至り美囊、明石の兩郡に於ても盛んに生産するに至つた。

生　産　者　美囊郡上淡河村　坂本辰治郎
有馬郡有野村　有馬食料品株式會社

◉蕊　藁　年産額　十五萬圓

主として麻裏表用として古くから縣下佐用郡に於て採收せられ、現今では多紀、加東兩郡地方に於ても採收生産するに至つた。

生　産　者　佐用郡久崎村　山陽切藁株式會社

◉麻裏表　年産額　三萬五千圓

本業は古くから縣下佐用郡に於て少量の生産ありしが、最近多紀郡に於て農家の副業として盛んに奬勵を加へつゝあるので、今後は相當の生産を見るに至るであらう。

生　産　者　佐用郡久崎村　大内久吉

◉木工細工　年産額　十萬圓

縣下宍粟郡に於て大正八年度より郡立木工講習所を設置したるに始まり、以來長足の進歩をなして今日に至つた。

生産者　宍粟郡山崎町　宍粟木工藝株式會社

◉綿織物　年産額　三千五百萬圓

縣下綿織物中農家の副業として生産せらるゝもの、所謂播州縞は多可、加西、加東、神崎、飾磨等の農家が古來から副業として機織に從事し來つたもので、最近は各地に大工場の續出するに至り、副業的從業は年次減少するに至つた。

生産者　多可郡西脇町　播州織同業組合

手延そうめん

消化し易く
滋養に富み
味ひ又佳良

山陽線網干驛前
播州素麺購買販賣組合
兵庫縣龍野川東
播州素麺同業組合

明石特産洋齒孕籠

△果物籠各種
△食器籠各種
△其他各種

シダ籠の特徴

◉堅牢第一……十年以上用ひましても形は少しも崩れません
◉體裁優美……形、色澤は最も雅趣に富んで和洋何れの御家庭にも向きます
◉衛生第一……濕氣に對して少しも變質變色いたしません腐敗の虞更にありません
◉廉價一等……竹籐細工の樣に高價でありません

洋齒孕籠の需用は内外共に年々激増してきました家庭必需品です是非お求め下さい何品に不拘貴需に應じます

明石特産洋齒孕籠製造元　兵庫縣明石市相生町　荒木英二商店

確實第一を標語とする
各種壜苞の取引先は

麥酒用
清酒用
醬油用
酢用
礦泉用
藥品用

壜苞良品各種

其他瓶詰品一式

淡路壜苞同業組合
事務所　兵庫縣津名郡洲本町紺屋町
電話洲本四〇九番

奈良縣

◉茶荃　年産額　四萬圓

足利時代生駒郡北倭村字高山の城主大炊介源頼秀の弟民部丞入道宗砌なる者が、珠光和尚から茶荃製作の傳授を受けたのが斯業の始まりである。爾來茶荃の製作は高山獨占の事業となつた。

生産者　生駒郡北倭村高山　久保喜太郎

◉籙　年産額　十六萬圓

沿革は不詳であるが茶荃の製作に伴ひ、其後製作せられたもので、茶荃同樣生駒郡北倭村高山獨占事業で、將來益々發展するものと見られて居る。

生産者　生駒郡北倭村上　松本爲治郎
同　同　村高山　杉岡千太郎

◉ナイフ、フォーク　年産額　三千圓

最近の製作にかゝり、年産額は僅少であるが、風雅な竹製品で野外用として輕便且つ一回限りの使用に付衛生的のものとして賞用されて居る、都市カフエー並に外國貿易品として將來産額は増大する見込である。

生　産　者　　生駒郡北倭村高山　　久保喜太郎

◉篊　年産額　三萬圓

生駒郡北倭村高山の産で、沿革は不詳であるが、茶荳、籐等と同樣足利時代から始められたるものならんと言はれて居る。酒樽の洗滌には極めて好適である。

生　産　者　　生駒郡北倭村高山　　辻本卷治郎

◉箕、飯籠、魚入籠、竹簾　年産額　十萬圓

山邊郡波多野村及高市郡今井町、吉野郡賀名生村を中心として製作せられ、近畿各府縣に販路を有して居る。

生　産　者　　高市郡今井町小網　　吉川菊松

◉大和表（麻裏表）　年産額　百萬圓

南葛城郡大正村、添上郡辰市村、磯城郡川西村、北葛城郡上牧村、生駒郡片桐村が主産地である。本縣藁工品中原料を他府縣から求めるのは本業のみで、製造に用ふる部分を俗によと稱し、稻藁の第二、三關節合である。製品の販路は主として關西、中國、九州地方にして近年東北地方にも行くやうになつた。

生　産　者　　南葛城郡大正村西松本　　阪口孫治郎

◉朝日箒、手箒、水箒　年産額　二萬圓

從來磯城郡川西村、南葛城郡大正村等が其の主産地である、販路は主として關西地方主要都市である。

生　産　者　　磯城郡川西村梅戸　　深澤庄太郎
　　南葛城郡大正村西松本　　阪口仲治郎
　　同　　河合清四郎

◉素麺　年産額　四十八萬圓

三輪素麺は其起原最も古く我國素麺の鼻祖であつて、其後製造法各地に傳り、現時のやうな盛況を呈するに至つた、製造期は毎年十一月に機始を爲し翌年三四月を以て機止をする、三輪素麺は風味優良な手延製のみで機械製品はない、明治三十年三輪素麺同業組合の設立成り、現に製品の改善販路の擴張に努力して居る。

生　産　者　　磯城郡三輪町　　三輪素麺同業組合

◉玉子饂飩　年産額　九萬圓

磯城郡纒向村に産し風味卓越、全國に販路を有つて居る。

生　産　者　　磯城郡纒向村辻　　島岡義太郎

◉棕櫚葉下駄表　年産額　百五十萬圓

磯城郡大福村大字大福南方及香久山村吉備北方と相合して一村落を形成し、其の主産

地をなして居る、現今下駄表としての需要は增加し、縣下原料產地並に他府縣から技術修得の目的を以て來るもの多く、販路は全國的である。

生產者　磯城郡大福村大福　西村茂

◉貝釦　年產額　百萬圓

本縣は大阪府に次ぐ貝釦の主產地である、明治三十年頃磯城郡川西村大字結崎に於て極めて幼稚な方法により製造したのであるが、歐州戰亂勃發前後より製造に要する器具機械は改善せられ、且つ技術向上し縣內各地に製造を見るに至り、產額著しく增加して參百萬圓に達した事もあつた。

生產者　北葛城郡新庄町新庄　村田竹松

◉水牛釦　年產額　二十萬圓

高市郡飛鳥村附近で製造せられ、原料は支那、濠州、南北米國から輸入して、漸次產額增加の傾向がある、而して販路は內地各地を初め、海外諸國に及んで居る。

生產者　高市郡飛鳥村　關西釦株式會社

◉骨釦　年產額　六萬圓

北葛城郡馬見村地方に產し、原料は內地屠牛場並に支那、濠州等から集る。販路は大阪、東京を始め米國に輸出せられて居る。

生產者　北葛城郡馬見村平尾　乾忠藏

◉製茶　年產額　百萬圓

古事記に依つて本縣の栽茶業は今より七百四十年前既に栽植せられた事が解る、爾來幾多の星霜を經て文化、文政の頃伊賀、近江、山城の諸國から盛んに茶種を得て各所に傳播し、安政年間製茶貿易開始當時既に多少の輸出を見た、而して十五六年頃から縣にて種々の保護改良を加へし結果、一般に順調に赴き今日の盛況を見るに至つた。添上、山邊、磯城三郡の山間地方吉野郡の一部等には優品を產する所が多くなつた。

生產者　奈良市京終町　奈良製茶株式會社

添上郡田原村　北祐造

◉鼻緒(革製)　年產額　百萬圓

縣下鼻緒の生產地は廣く散在すれ共、革製のものを產するは生駒郡三郷村立野のみである。立野は信貴山麓關西線に沿へる村落で、一部を除く他は古來革類を取扱ひ主として下駄鼻緒の製造に從事して居る。原料革は主に滿鮮產であつて、製品は多く大阪、名古屋方面に取引される。最近東京方面にも取引さるゝに至つた。

生產者　生駒郡三郷村立野　紀川巳之治郎

◉鼻緒(布製)　年產額　四萬五千圓

北葛城郡土庫村に產する鼻緒は、古くから始めしものゝ如く、原料ベッチンは主に岡山縣から移入せられ、製品は關西主要都市並に九州一帶に販賣せられて居る。

生　產　者　北葛城郡土庫村八　竹本竹太郎

◉菟田紬　年產額　一萬圓

縣下第一の養蠶地たる宇陀郡は、屑繭整理講習會（大正十年以來）の結果新に生產されしものであつて將來增加の見込である。現在販路は主に關西地方であるが、漸次關東地方にも及ぼす傾向である。

生　產　者　宇陀郡神戸村西山　岡本孫治郎

◉甘露梅　年產額　七千圓

天下の名勝月瀨村に產し、最近の製造にて風味良好土產品として重寶されて居る。

生　產　者　添上郡月ヶ瀨村尾山　小谷宗太郎
同　村桃香野　山西藤吉

◉便利切炭、月星炭、特用便利炭　年產額　六萬圓

添上郡月瀨村に產し、最近の製造にかゝるものである、原料の大部分は村內產を用ひ、製品は全國主要都市に販賣せられて居る。

生　產　者　添上郡月瀨村桃香野　久保田勇藏

◉吉野葛　年產額　二萬圓

約三百年前の製作に係り、當初は藥用として用ひられしが、現在は滋養食として需要が多い、原料は總べて葛藤根から採收せる澱粉なれば、價格高き憾みがあるも眞價を知れる者は他品を用ひずと云はれて居る。

生　產　者　宇陀郡松山町上新　黑川重太郎

◉呑口　年產額　一萬五千圓

北葛城郡瀨南村の產で、產額は少くも製品優良に付各地需要家の歡迎を受けて居る。

生　產　者　北葛城郡瀨南村古寺　乾宇吉

◉山葵粕漬　年產額　三萬圓

山邊郡波多村に產す、大正十二年に創めて製造し、一般需要家の批評を仰ぎ、改善すべき事項に付ては十四年開催の講習會にて之が研究を遂げ、以て一般人の嗜好に適する製品を得るに至り、最近各地からの注文は殺倒するに至つた。

生　產　者　山邊郡波多野村　大和山葵加工組合

◉干瓢　年產額　五萬圓

山邊郡朝和村、磯城郡川東村、纏向村、生駒郡平端村地方が主產地である。主に關西主要都市に販賣せられて居る。

生　産　者　　生駒郡平端村額田部　　藤田勝利

◉襖　地　年産額　三十萬圓

生駒郡及び奈良市に産し、芭蕉布、紗織、新葛布、御襖地等各種の製品がある。襖上地として優美且つ強靭なるを以て需要多く、阪神地方を初め、中國、四國、九州地方への賣行は良好である。

生　産　者　　生駒郡都跡村字横領　　福井金作

◉吉野杉箸　年産額　二百萬圓

有名なる吉野杉材より樽丸を採つた後の廢材を以て製造するもので、之等の原料材は三十年前には山野に棄てられ、僅に薪材となせしを試みに割箸を作りしに飲食店等に歡迎され、忽ち下市町各戸の副業として行はれ、異狀の發達を見るに至つた。

生　産　者　　吉野郡下市町　　笹田市松

◉大和澤庵　年産額　五萬圓

北葛城郡新庄町、浮穴村に産す、材料は美濃早生大根で毎年十月初中旬優品を製造し阪神地方及關東地方に販賣して居る、大正十四年度開催の漬物講習會にて漬方の改良、材料の統一を圖つたので、今後一層の優良品を出し、各地市場にて他府縣産を壓倒するものと思考せられて居る。

生　産　者　　北葛城郡　　北葛城郡農會

◉ベッタラ漬、生薑漬、梅漬　年産額　一萬五千圓

北葛郡新庄町に於て大正十四年十月開催せる漬物講習會に依り新に生産されたものである。産額は僅少であるけれ共今後同町を中心とし、大和澤庵と同じく優等品を早秋産出せられ、關西、關東、大都市市場を賑すに至るであらう。

生　産　者　　北葛城郡　　北葛城郡農會

◉奈良團扇　年産額　十萬圓

古くから奈良市に産す、原料竹は多く大和、山城産を用ひ、全國各地に販賣せられて居る。最近添上郡大柳生村で副業的に製作を奬勵して居るので、將來産額增加の見込である。

生　産　者　　奈良市下三條町　　氷室省三郎

◉奈良人形　年産額　三萬五千圓

奈良市の特産品として全國に有名な奈良人形は、奈良縣産の古材を用ひ製作さるゝ美術品で優秀品の製作は容易ならず、所謂名匠の製作品は非常に高價に發賣されて居る。

生　産　者　　奈良市上三條町　　金澤奈良一

◉奈良角細工　年産額　四萬圓

鹿で有名なる奈良市にはその角を以て製作する角細工があつて、奈良に産する材料のみでは不足するを以て、滿鮮からの輸入額が多い。重寶な土産品で奈良に足を入るるもの必ず數種の角細工を持歸るのを以て見ても解るであらう。

生　産　者　奈良市上三條町　　金澤奈良市

◉金魚　年産額　十二萬圓

生駒郡郡山町の金魚の飼育はその紀元最も古く、藩士の娯樂的に飼育を始めしものである。其後廢藩置縣と同時に、一般農民の飼育する所となり、全國に販賣せらるゝに至つた。其色彩容姿の優美とに依つて、近年遠く海外に搬出を見るに至つた。

生　産　者　生駒郡郡山町　　郡山町養魚組合

◉大和鯉　年産額　十萬圓

鯉の一品種たる大和鯉は金魚同樣生駒郡郡山町を主産地とし、縣下平坦地方に産出す、養殖用種として定評あるを以て各地に賞美せられ、將來益々增加の傾向である。

生　産　者　生駒郡郡山町　　郡山町養魚組合

◉吉野紙　年産額　四十五萬圓

由來起業年代等は不明であるが、口碑に依れば吉野郡南芳野村(現在丹生村)黑木の才五郎と呼ぶ人の創製とし漸次發達して今日に至つた。吉野郡國樔村、丹生村、宇陀郡の南部地方を主産地とし、原料楮皮は高知、島根、京都、鳥取、岡山等から供給を受け、製品は漆紙、傘紙として各地に販賣せられて居る。

生　産　者　吉野郡國樔村字窪垣内　　南清太郎

◉筆　年産額　五十萬圓

奈良の筆墨は天下汎く其名を傳へ縣下特産の隨一品である。起原は不詳なるも沙門空海が遣唐使となつて唐から其の製法を得て歸つて衆人に傳へたものと云はれて居る。從來高市郡今井町が主産地であつたが、現今は奈良市でも盛である。

生　産　者　奈良市今辻子町　　大日本製墨株式會社

◉墨　年産額　百萬圓

墨の起源は天正年間大禰公八世の裔松井佐渡守義忠の三男道正の長子道珍なる者、南都に來り居を此地に占め、製墨の業を興せしに始る。爾來製法の研究をなし慶長十八年朝廷に献上し、土佐椽の官を賜り、爾後累代本業を繼續して今日に至つたのである。

生　産　者　奈良市今辻子町　　大日本製墨株式會社

◉木工品

櫻花と南朝の遺蹟に富める吉野郡吉野山に於て大正十四年開催せる木工講習會に於て製作されたもので、將來大いに奬勵を加へて名所舊蹟多き縣内は勿論、廣く他府縣に

此種製品を販賣せんとして居る。現在は未だ僅少である。

生　産　者　吉野郡吉野村　吉野山保勝會

◉凍豆腐　年産額　二百萬圓

天保年間山邊郡小倉山杉本武助なる者が、紀州高野山から其製法を傳習し、自村に於て製造を始めたのが起因である。爾來年と共に産地、産額を增加し今日に至つた、元來本業は冬期三ヶ月嚴寒の候に製造する農家の副業である。主産地は山邊郡都介野、豐原、針ヶ別所村、添上郡東山村一圓並に吉野郡野迫川村地方である。

生　産　者　吉野郡野迫川村　野迫川凍豆腐製造同業組合

◉ゴム靴　年産額　百萬圓

北葛城郡高田町附近に於て産出せられ、全國各地に販賣せらる。最近工業試驗場に於ては右ゴム靴の塗料を新に發明したので、普く之れが使用方を奬勵中である。

生　産　者　北葛城郡高田町高田　吉川直吉

◉杉箸

生　産　者　吉野郡下市町　製箸同業組合

◉吉野紙

生　産　者　吉野郡國樔村　國樔村紙業組合

TRADE SS MARK

大阪市立衛生試驗所檢査濟

完全消毒箸

消毒 メートル箸

奈良縣廳後援ハシエス號宣傳部

製造本舗

奈良縣下市町

笹田市松商店

電話（一三三番）（四三）

振替口座大阪二七九三番

金魚各種何時にても御注文に應ず

金魚の元祖

大和鯉本場

養殖用鯉仔親鯉廉價提供

大和郡山町

養魚組合

御家庭用御旅行用として好適す

大量取引御希望の向へは特に御相談可申候

風味卓越 純良 わさび漬

奈良縣山邊郡波多野村

大和山葵加工組合

中光正一商店

營業種目

肉筆奈良扇
諸慶事用扇
謠曲仕舞扇
中啓雪洞扇
諸流歌舞扇
新年勅題扇
書畫用白扇

右ノ外奈良古代模樣透團扇各種

見本入用ノ節ハ郵劵壹圓封入ノ事

奈良市三條通
奈良團扇
奈良扇本舗 **氷室旭櫻堂**

毎月一回一日發行

月刊誌雜

副業

一部 定價 三十五錢

副業を經營される方にも、研究される方にも、有益なる好資料を毎號掲載します。

東京市麹町區内山下町一ノ一

發行所 **日本産業協會**

振替東京三六六六〇番

和歌山縣

◉除蟲菊製品 年産額 製粉 百五十五萬七百八十八封度 百六十五萬四千八百一圓 蚊取線香 四百五十一萬千二百八十三箱 百六十萬二百二十圓

生産者 有田郡保田村大字山田原 山彦除蟲菊株式會社

同 帝國除蟲菊株式會社

同 東洋除蟲菊貿易會社

同 大日本除蟲粉株式會社 紀州工場

◉木炭 年産額 白炭 四百十二萬千七十二貫 百七十九萬二千七圓 黑炭 七十六萬七千百二十五貫 二十二萬十四貫

生産者 日高郡南部町 三前松一郎

東牟婁郡古座町 古座川木炭同業組合

◉棕梠製品 年産額 棕梠綱及繩 四十七萬五千貫 百四十二萬二千圓

生産者 那賀郡東野上村 桑添好次郎

同 桑添龜楠

同 藪本虎市

同 堀繁延

同 竹原常一

◉棕梠晒葉　年産額　十一萬五千貫　十九萬三千圓
生産者　那賀郡東野上村　桑添龜楠

◉マット類　年産額　靴用　三十萬才　敷物用十萬疊
生産者　那賀郡東野上村　堀繁延

◉染パーム製地叢　年産額　二千荷　千百圓
生産者　那賀郡東野上村　伊都楠次郎

◉梠梠簑　年産額　三千枚　六千圓
生産者　那賀郡東野上村　井澤芳太郎
同　竹原常一

◉棕梠箒類　年産額　二萬五千本　二萬五千圓
生産者　那賀郡東野上村　伊都政二

◉棕梠晒葉下駄表　年産額　一萬足　四千圓
生産者　伊都郡笠田町字佐野　村岡傳右衞門

◉梅干　年産額　六十萬貫　五十萬圓
生産者　西牟婁郡田邊町　日高郡南部町　西牟婁梅干同業組合　南部梅干同業組合

◉梅干加工品　年産額　一萬六百圓
生産者

封じ梅　日高郡南部町　山崎喜兵衞
梅の美、園の梅　西牟婁郡田邊町　森山幸二
あこがれ梅　同　田邊町　大谷喜一郎
あまうめ　同　泰本千代吉
甘紅梅　同　鈴木菊次郎
きさらぎ　同　鈴木菊次郎

◉山葵漬　年産額　四千五百圓
生産者　伊都郡高野村高野山　龜田政太郎
同　坂田政一

◉高野納豆　年産額　千二百圓
生産者　伊都郡高野村高野山　小堀富士之助

◉貝釦　年産額　五十五萬六千圓
生産者　西牟婁郡田邊町　白井文式
同　堀熊楠

◉漉海藻	年産額 六萬圓	生産者	東牟婁郡古座町 津荷漁業組合
◉木箸	年産額 六萬圓	生産者	那賀郡長谷毛原村 森本寅松
◉串柿	年産額 九萬二千圓	生産者	伊都郡四郷村 尾東虎一郎
◉貝細工	年産額 一千圓	生産者	海草郡加太町 西川安藏

鳥取縣

◉打綿	年産額 三十萬圓	生産者	西伯郡米子町 有限責任伯州綿信用購買販賣利用組合
◉傘	年産額 二十九萬圓	生産者	西伯郡淀江町 有限責任淀江傘信用購買販賣利用組合
			岩美郡面影村 岩越久藏
			同 竹内辰治
			同 本田重藏
◉箕	年産額 八千圓	生産者	西伯郡東長田村 板太一郎
◉藤綟子	年産額 五萬圓	生産者	西伯郡東長田村 井上千三郎
◉經木眞田	年産額 十萬二千圓	生産者	西伯郡米子町 西尾常壹
◉山葵	年産額 五千圓		

生産者　日野郡米澤村　末次儀太郎
　　東伯郡山守村　小椋平吉

◉杞柳製品　年産額　五萬九千圓
生産者　日野郡二部村　足立榮市
同　根雨町　根雨杞柳工業所
　　鳥取市元大工町　畠山治良吉

◉菅笠　年産額　二萬六千圓
生産者　日野郡江尾村　門脇ちよの
　　東伯郡田後村　田後信用販賣組合

◉杓子　年産額　參百圓
生産者　日野郡米澤村　森田薫秋

◉疊表　年産額　八萬圓
生産者　日野郡阿毘縁村　荒金愛治
　　八頭郡大御門村　大御門莫産生産組合
同　牧田繁好

◉木炭　年産額　百六十萬圓
生産者　日野郡黒坂町　柴田鐵夫

◉漆器菓子椀　年産額　一萬圓
生産者　氣高郡日置村　鹽正祥

◉茶盆　年産額　一萬六千圓
生産者　日野郡多里村　加藤信治郎

◉和半紙　年産額　八拾萬圓
生産者　氣高郡日置村　日置製紙販賣組合
同　釜谷鹿藏

◉竹細工品　年産額　二萬圓
生産者　氣高郡豐實村　宮本滿雄

◉米揚桶　年産額　五千圓
生産者　岩美郡宇倍野村　金田辨藏
同　桐谷粂藏

◉杉森葛　年産額　五百圓
生産者　八頭郡大村　伊田伊三郎

◉柿　年産額　拾萬圓

生産者　八頭郡大御門村　石波市造
◎板屋貝生干　年産額　二十萬圓
生産者　氣高郡濱村　太田隆三
◎板屋貝煎餅　年産額　二千圓
生産者　氣高郡賀露村　山根謙一
◎西瓜　年産額　四十三萬圓
生産者　東伯郡八橋町　杉本萬藏
◎梨　年産額　二十四萬圓
生産者　東伯郡東郷村　更田安左衞門
同　秋久清二
同　桑田竹次郎
同　伊澤爲藏
同　板下捨吉
同　上福幸太郎
同　秋田泰造
同　瀨戸菊雄

岩美郡宇倍野村　川上正吉
◎草履　年産額　三萬五千圓
同　横山清吉
生産者　東伯郡東郷村　北田菊藏
◎草鞋　年産額　五萬貳千圓
生産者　東伯郡東郷村　石橋久藏
◎荷造り繩　年産額　七萬圓
生産者　鳥取市吉方町　田伯副業幹旋所
◎麻裏草鞋、ゴム裏、天津裏　年産額　參萬圓
生産者　鳥取市吉方町　田伯副業幹旋所
◎箒　年産額　五千圓
生産者　東伯郡上小鴨村　米田繁三郎
◎藁箒　年産額　五千圓
生産者　岩美郡宇倍野村　小林清太郎
同　山内段藏
同　小林入次郎

◉薩漬　年産額　五萬圓
生産者　岩美郡服部村　井守野千代治
同　井手野幸太郎

◉海士海老　年産額　一千圓
生産者　岩美郡服部村　井守野千代治

◉梨飴　年産額　四萬圓
生産者　岩美郡宇倍野村　川上幸造
同　檜柴義治
同　丸山正治
同　宮脇三郎
同　岡垣豊次郎
同　野田德壽
同　川上正吉
同　谷口忠吉
同　福谷長治

◉白珊瑚細工　年産額　六萬圓
生産者　鳥取市智頭街道筋片原三丁目　岡田長太郎
同　老門清治

◉香匣石　年産額　五百圓
生産者　鳥取市西町　田中倫研

◉消毒箸並に割箸　年産額　三萬圓
生産者　鳥取市東品治村　岡本茂

◉眞綿　年産額　一萬三千圓
生産者　鳥取市吉方町　宇田川幸太郎

◉鮎うるか　年産額　一千圓
生産者　八頭郡河原村　千代川水産組合

◉鯖生利罐詰　年産額　三千圓
生産者　鳥取縣廳内　鳥取縣水産試驗場

◉木地椀　年産額　二萬一千圓
生産者　日野郡多里村　加藤信次郎

◉湖山煮　年産額　一萬圓
生産者　氣高郡湖山村　村上作治

◎蠶網　年產額　一萬圓

生產者　東伯郡上北條村　山本金藏

同　牧田繁好

當所を御利用下さい

鳥取縣下副業品斡旋機關

當所の生產

各種仕上ケ繩
各種麻裏草履

麻裏草履の表
同原料
製紙原料
藁しべ
繩、叺、莚
其他副業品一切

斡旋

因伯副業斡旋所

鳥取縣鳥取市吉方新橋通
電話三九二番

日本デ唯一ノ純內地綿

彈力强剛
光澤鮮麗
纖維短太

伯州綿

容積ノ減ラヌ優良中入綿

鳥取縣西伯郡米子町

有限責任 伯州綿信用購買販賣利用組合

電話米子局六〇壹番

疊表

鳥取縣入頭郡大御門村

と

登山莫蓙

大御門莫蓙生産組合

電話郡家七番

日本一の海士蓙

特長

貯藏好適
色澤純白
鹽漬
壜結

齒切良好
風味佳良

海士蓙出荷販賣組合

有限責任

鳥取縣岩美郡服部村

（山陰線鹽見驛ヨリ北十町）

一業務概要

原料及藥品共同購入製品取引ノ仲介斡旋

一特長

紙質優美强靭インキ浸透セズ光澤ニ富ム

一年產額 貳百萬圓

鳥取市藪片原町

株式會社松江銀行鳥取支店內

因幡紙同業組合

商標

創立目的 大正九年十月家禽業ノ發達ヲ期スルヲ以テ目的トス

事業

イ、家禽ニ關スル講習講話會共進會ノ開催
ロ、卵肉ノ改良共同販賣
ハ、種禽種卵ノ配付
ニ、種禽種卵飼料機具等共同購入
ホ、貯卵場孵化場經營

年產 拾五萬圓

販路 京都、大阪、神戸、舞鶴但馬地方

西伯 鷄卵

正味三貫七百入 大玉箇詰

鳥取縣西伯郡

家禽協會

柳行季
柳鞄
バスケット
籐バス製造

卸商

鳥取市元大工町

畠山治良吉

電話六五七番

振替大阪六五〇三五番

農商務省農務局編纂

副業生産品ニ關スル調査

定價金二圓五十錢
郵税二十二錢

農村振興の方策として副業奬勵は其の最緊切なるものことは、朝野の輿論であり、政府當局及各政黨政派共之を力説して居るを見ても明かであるが今日迄之が計畫實行の基礎となるべき資料のないことは甚だ遺憾とする所であつたが、曩に本會が斯業奬勵に資する爲農商務省に申請の上同省調査に係る有益なる資料の出版方を許可せられたので印刷に附し一般有志に實費提供することになつたのである

發行所　東京市麴町區内山下町一ノ一
日本産業協會
振替口座東京三六六六〇番

島根縣

◉木炭　年産額　三百四十九萬五千三百九十三圓

縣下の林業副産物中主なるものを大別すれば白炭及黒炭の二種で、黒炭が其の大部分を占めて居る、本縣は古來から砂鐵採取業盛なりし爲、其の熔鑛燃料として製造せしもの多く、爲に炭質劣惡なりしが、近時製鐵事業の衰退と、縣に製炭敎師を置き、之が改良に努めし結果、品質は漸次優良のものを製出するに至つた。主産地は邑智郡に亞ぎ、販路は主として九州、大阪、神戸、京都等である。

生産者	美濃郡都茂村	澄川本次郎
同	能義郡山佐村	田中好市
同	同	足立能市
同	同	鴨木金市
同	井尻村	赤名貞之助
同	同	赤名武雄
同	同	種田仁市

能義郡井尻村	種田定次郎	
同	妹尾秀一郎	
大原郡木次町	長谷川宇太郎	阿用村下久野下組木炭改良組合
同　阿用村大字下久野	石倉儀太郎	南村中湯石木炭共同販賣組合
同　海潮村	秋原潔之	
八束郡岩阪村大字西岩坂	絲原武太郎	
同	吉川伴三郎	
仁多郡八川村大字大谷	田部長右衛門	
同　布勢村	大谷要之助	
飯石郡吉田村	江津木炭商組合	
同　松笠村	石州木炭株式會社	
那賀郡江津町	遠藤孫太郎	
同　濱田町字淺井	遠藤重俊	
同　今福村	宮田政一	
同		
同　雲城村		
那賀郡雲城村	井上靜夫	
同　川平村	佐々木丈一	
同　石見村	桂商店製炭部	
鹿足郡日原村	岸田幾治	
同	水津鶴左衛門	
邑智郡吾師村	中澤淺吉	

◉和　紙　年產額　百九萬七百四十六圓

石見紙は長祿年間津和野領主吉見弘信の時、鹿足郡青原村三浦某なる者楮紙を製造せるを以て創始とする。亞いで慶安四年龜井茲政は萩の人坪井某を招き斯業の普及を圖り、遂に領内の一大產物となるや、畑地の貢祖は紙を以て爲さしめしと云ふ。出雲紙は松江藩主松平直政が越前の人中條某を招きて、八束郡乃木村に紙漉物場を設け、漸次領内に普及せしめた、降て貞享四年藩主松平綱隆の時楮の栽培は畑地の貢祖を免除せりと、如斯各藩共に斯業奬勵の結果隆盛を極めしも藩政の保護取締一朝廢止せらるるや粗製の弊に流れ、聲價を失望せむとせしも越て明治三十三年同業組合法實施せらるるや、石見紙同業組合及出雲國製紙同業組合を組織し、高知、岐阜縣の先進地から教師を聘して改良を圖り、又傳習所を設け職工を養成し、四十四年縣は技術員を置き

て實地指導せしめ、大正二年にはビター設置者に對して縣費補助を爲す等助長奬勵の結果、逐年產額增加し、既往十年間に著しい發達を見るに至つた。主なる生產地は美濃、鹿足、八束の各郡であつて、大阪、福岡地方に漸次販路を開拓して居る。

生產者		
美濃郡稗村	奥田繁市	
同	松永定治	
美濃郡東仙道村	三浦健市	
能義郡布部村	足立三郎	
八束郡乃木村大字乃白	目次君藏	
同	佐世喜市	
同	岩阪村大字東岩坂	岩坂村別所製紙研究會
鹿足郡青原村		青原村信用購買販賣利用組合
同 日原村		小直瀧元信用購買販賣組合
同 青原村添谷	大庭和三郎	

◉疊表及蘭莫產　年產額　五十五萬五百十四圓

主要生產地八束郡の蘭草栽培は、二百五十餘年前藩主の奬勵に依り移殖せられしを以て嚆矢として居る、爾來幾多の變遷を經、郡內佐太村にて本鄉表と稱し卓越せる製品を產出するに至つた。蓋し此の地一帶地味栽培に適すると蘭草染上の優良なるに依り、明治二十五年頃組合規約を結び職工を養成し、二十七年頃花莚傳習所を設け、花莚製織及製品の改良を圖り、次で明治三十二年松江市、八束、簸川兩郡を地區とする表莫產販賣及製造業者を以て組織せる同業組合を設け、製品の統一改良を圖り、今日の如き發達を見るに至つた。主なる仕向は東京、秋田、石川、新潟地方である。石見莫產は下關及北九州地方に販路を有つて居る。

生產者		
松江市外中原町	伊藤作太郎	出雲表莫產同業組合
美濃郡安田村	大島產治	
同	福原佐平治	
同 吉田村		無限責任吉田村信用購買販賣組合
同 安田村		無限責任安田村信用購買販賣組合

◉鰯　年產額　三十三萬八千三百九十三圓

鰯は隱岐を主とし、沿海各郡殆んど之を產す、最近其の原料たる柔魚の漁獲が豐でないので產額も亦減少の傾きである。而して隱岐水產組合は夙に規定を設け、其の製造及荷造檢查を實行し品位を定め、檢查證を貼付して市場に搬出するから、輸出先の信

用を高め、定評を得るに至つた、産地は隱岐を主とし、邇摩、那賀、八束の諸郡之に亞ぎ販路は殆ど縣外特に神戸、大阪、山口、岡山、廣島等に移出せられ、神戸、大阪を經るものは主として支那向のものである。

生産者　八束郡美保關町大字美保關　植村善之助
同　周吉郡西郷町大字西町　石川安次郎
邇摩郡五十猛村　齋藤富太郎
同　松村福三郎
同　三井重吉

◉製紙原料（楮皮、三椏）　年産額　三十萬六千五百五十八圓

楮及三椏は古來から奬勵を加へ、風土に適する爲め縣外に普及し一部は縣内の製紙に供するも、縣外移出も亦楮皮十四萬貫、三椏皮三十五萬貫に達す、而して主要なる仕向地は靜岡、岐阜、鳥取、福井、山口、東京、大阪、廣島等である。品質良好で歩止りがよき爲め聲價を呼んで居る。

生産者　美濃郡眞砂村　村上春太
同　村上豊治
大原郡大東町　野々村治一
大原郡木次町五九　金田善太郎
飯石郡掛合村　有限責任掛合村物産販賣組合
鹿足郡須川村　須川村信用購買販賣利用組合
同　柿木村　柿木村信用購買販賣利用組合

◉茶　年産額　三十萬千五百十一圓

茶樹の栽培は古來から行はれ、明治二十年頃茶業組合及民間有志が協力して屢々各所に傳習所を設け、製法の改良を促し、又茶實を配付し栽培增殖を圖つたので、以來年を逐ふて産額增加の趨勢を呈した。産地は大原郡を最高とし、松江市、簸川、八束、鹿足、美濃の各郡といふ順位にある。主なる販路は縣内及鳥取、神戸地方に移出せられて居る。

生産者　大原郡大東町九七四　藤原安太郎
八束郡熊野村　熊野村木炭改良會
同　乃木村大字乃木　目次善五郎
簸川郡直江村　黒田爲五郎
安濃郡太田町　福田永治

◉藁工品　年産額　二十七萬九千九百十七圓

主として農閑冬期の頃製産せられ、繩を主とし副業組合に於て、共同販賣するもの多く阪神地方に販路を有して居る。主なる生産地は簸川、能義、八束の諸郡である。

生産者		
能義郡能義村	山本佐吉	
同　宇賀莊村大字清井	製繩組合	
八束郡川津村大字下東川津	平江森藏	
同　竹矢村大字竹矢	青砥圓之助	
同　持田村大字福原	寺本佐一郎	
簸川郡伊波野村	原組婦人副業組合	
同　直江村	堀切製繩組合	
邇摩郡大屋村	清水明介	

◉麻　年産額　二十萬六千八百二十九圓

古來雲石山間部に多少の産出せしが、明治十四年栃木縣から技術員を招き、之が栽培製造の改良を試み、稍々好果を得て生産額も増加した、其後邑智郡で農家の副業として奬勵に力め、漸次改良して居る。主産地は邑智、仁多、美濃、飯石の諸郡とす。縣外移出先は大阪、廣島、山口等である。

生産者	
美濃郡高津町	宮崎直助
同	宮崎利一郎
邑智郡矢上村	邑智麻織物試驗所

◉竹製品　年産額　十四萬二千八百九十三圓

竹細工は往古は特殊部落民の專業に屬せしも、近年多少一般民の營業とする所となつた。縣下で最も産額の多いのは八束郡で、簸川郡、那賀郡は之に次ぎ、從來本品は主として大阪に仕向けしも年次産額増加し、神戸地方にも販路を有するに至つた。

生産者	
八束郡美保關町大字美保關	奥村長次郎
同	奥村荒次郎
邇摩郡大森町	森下兼太郎

◉推　茸　年産額　十五萬九千七百七十五圓

明治四十三年から縣に之が栽培教師を置き指導奬勵の結果、漸次其の生産を増加するに至つた。産地は主として隱岐國、鹿足郡、美濃郡、那賀郡等で、最近仁多郡でも産出するに至つた。販路は廣島、大阪地方が主である。

生産者	
美濃郡鎌手村	新井彌三郎
同	尾土井村治
鹿足郡柿木村	河野英輔

鹿足郡朝倉村　　石井芝太郎

◉算盤　年産額　十五萬圓

文政年間仁多郡龜嵩村にて創製せられ、爾來龜嵩算盤又は雲州算盤と稱せられ、全國到る所に名聲を博した、現今は主として仁多郡横田村、龜嵩村に於て製造し、內地は勿論滿鮮各地にも販路を有して居る。

生産者		
仁多郡龜嵩村	同	龜嵩算盤合名會社
横田村	同	出雲算盤株式會社
龜嵩村	同	荒田久太郎
横田村大字横田町	同	面曾善吉
	同	糸原爲右衛門
	同	上田倉藏
	同	宮田要造
鳥上村	同	藤原文四郎
横田村大字稻原	同	眞田與一郎

◉山葵　年産額　十三萬四千百八十一圓

安濃郡佐比賣村三瓶は古來山葵の名產地として知られ、美濃、鹿足其他中國山脈の麓一帶は山葵の生育に適し、產額も多く品質頗る勝れ京阪、下關、九州地方等の需要地に賞味せられてゐる。

生産者		
美濃郡匹見上村	同	齋藤富作
鹿足郡藏木村	同	田中鹿治
安濃郡佐比賣村	同	難波兼太郎
大田村	同	石村源太郎
邇摩郡水上村	同	小玉三右衛門
	同	福田永吉
	同	岡田萬吉

◉乾溫飩　年產額　十二萬五千七百七十一圓

主產地は能義郡安來町を第一とし、簸川郡內平田、直江、大津地方及松江市之に亞ぐ安來町の安來溫飩は凡そ百年前福島某、小麥を手挽にして製粉したるに創つた。又平田溫飩の創業は安來から稍々後年に於て製造せしものゝ如く、品位可良で聲價を博し、天保年間から連年松江藩御用を命ぜられたものである。明治二十年頃「鷄卵入り」を製出して益々聲價をあげ、而して安來溫飩製造業者及販賣營業者は大正八年能義郡を地區とせる能義郡製麵同業組合を組織して、信用の保持と品質の向上、品種の統一を計

つて聲價發揚に努めて居る、右は何れも家内工業であつて、而も製麺機械を有する者は少數にて多くは在來の手打製法に依り副業的作業に經營するものが多い。平田温飩は古來出雲名産の一として數へられ、品質可良松江手打製之に亞ぎ、安來製及松江器械製も風味佳良貯藏久しきに耐へ、色味變せざるの特長を有す、製品の三分の二は縣内で需用し、其他は主として鳥取縣三丹地方、新潟、北海道方面に販出せられて居る。

生　産　者　能義郡安來町　福　間　隆　一
　　簸川郡平田町　原　文　吉
　　邇摩郡仁萬村　石　川　兼　作

◉杞柳製品　年産額　七萬六千九百三十八圓

明治二十九年頃邇摩郡大國村の某、斯業の本場たる但馬から杞柳苗を購入し、同村に栽培し次で村民に勸誘し、希望者を募り但馬に至り製作の研究をなせしが斯業發達の端緒である、而して同郡及同郡農會が補助金を交付し、極力栽培の奬勵の結果栽培反別飩に增加した。尚一方杞柳製作傳習所を開設し、製作者を養成せし爲め遂年發達の傾向である。主なる仕向先は神戸、九州である。

生　産　者　松江市寺町　原　田　安　吉
　　簸川郡莊原村大字下庄原　須　田　繁　次　郎
　　邇摩郡仁萬村　有限責任邇摩郡杞柳製作物購買販賣組合

◉束髮網　年産額　七萬圓

松江市の特産物で、家庭内職として製造せられ、廣く全國の都市に移出し又外國にも輸出して居る。

生　産　者　松江市末次本町　三　成　熊　市

◉人　參　年産額　六萬四千八百二十圓

出雲人參の起源は今から凡百二十年前寛政年間に在つて、當時藩廳から吏員を日光、會津に派し、栽培及製造方法等の傳習を受け、歸つて之を八束郡大根島に移植し、藩營として製造し、長崎港で貿易を爲し、廢藩後は民業に移して經營せしが、藩制の檢束弛廢し、栽培增加して需用供給の平衡を失ひ或は粗製濫造をなすものありて、一時は頗る沈衰せしも明治二十三年同業組合を組織し、製品の檢査を勵行し、爾來漸く面目を革め、市場の信用を恢復するに至つた。販路は主として神戸商人の手を經て支那に輸出するのである。

生　産　者　八束郡波入村大字遲江　門　脇　房　松
　　同　二子村大字二子　曾　田　佳　松

◉眞　綿　年産額　五萬三千百四十八圓

縣下の蠶業は古來から行はれたが、明治十一二年頃から桑苗配付或は養蠶飼育試驗等を行ひ、之が發達を奬勵したので、年次其の生產額を增加するに至つた、玆に於て縣は各所に屑繭整理の傳習所を開設し、專ら眞綿製造技術を習得せしめ、亦之が改良發達を圖り品質良好のものを產出するに至つた。主產地は簸川、八束、大原、邑智等の諸郡で、生產品は縣內で消費するの外鳥取、廣島、山口地方に移出して居る。

生產者	松江市外中原町二三	高木新三郎
	大原郡木次町	栂千代藏
	簸川郡古志村	加藤テル
	鹿足郡津和野町	御鄕慶太
	安濃郡鳥井村	細田タメ
	同	細田清
	同	細田リウ

◉木工品（箸）

生產者	安濃郡鳥井村	淀平多作

◉白珊瑚（箸）

生產者	安濃郡鳥井村	大野竹藏

賜天覽
台覽

於一府六縣林產物共進會特等賞受領

力桂商店製炭部

島根縣濱田町

電話長一五五番
振替大阪六八八〇八番

本店長門國殿居
製炭所 山口、島根兩縣下ニ亘リ十二ヶ所

江津木炭商組合

島根縣那賀郡江津町

（山陰線石見江津驛）

〔組合員〕　〔いろは順〕

畑山清七
近重磯太郎
横山九一郎
横田傳二郎
園部清之助
土屋支店
中田寅一
福原利昌
後藤博市
江津商業株式會社
青木支店
木谷啓太郎
日高勇

岡山縣

◉草履表　年産額　五萬圓

本副業は大正四年作州地方風水害の救濟として奬勵し、爾來今日まで漸次發展し、苫田郡津山町を中心に苫田郡、久米郡に多産す、右の外現在は縣下各地に行はれて居る。嘗て縣下より露國に輸出したる事があり、目下再び輸出の計畫中である、內地は阪神地方より九州に至るまで販路を有し、草履表は裏付きなして麻裏草履となし、糸裏草履となし、又はゴム裏草履となして販出するの習慣にして、表は農村又は山村の副業であつて、裏付は市街地魚村又は囚人の手仕事として居る。摘藁又は草履表製造には副業組合存在して居るが、裏付けの草履には組合なく專ら商人の取扱に歸して居る。

生産者		
御津郡建部村大字西原	山崎儀作	
久米郡福岡村大字横山	山本まつ	
同　村大字八出	高山こゆき	
苫田郡院庄村大字神戸	吉神購買販賣組合	
同　村大字總社	山原喜一郎	
同	鍛內芳藏	

◉縄　年産額　三十五萬圓

本縣下の機械縄は明治四十二年頃より初まり、現在は縄綯機臺數壹萬數千臺に及び、産額年次增加して居る、藁を打たざるも機械によれば製縄し得る事は縣下機械縄の起因であるが爲、今日に至るも多く打藁を用ひざる習慣である、此の爲縄を仕上機に掛けて軟くする事は近來流行し、縣内に四十臺の機械普及を見る樣になつた。縣は副業奬勵として仕上機の奬勵と藁打設備の奬勵をなし、縣産の面目を一新する方針である。縣下の岡山縣縄同業組合は、檢査を勵行せるを以て著しく品質の昂上を見るに至つた。而して同業組合の設立は目方によりて賣買することを禁じ、一丸を持て取引の單位と定め今日に及び、一丸の疋尺は周圍一寸縄千尺、重量は壹貫七八百匁、周圍一寸二分縄六尺五十尺、重量は壹貫七八百匁とす。主産地は上道郡、邑久郡、赤磐郡にして、大阪、兵庫、廣島、山口等の諸縣に販賣し。主なる製縄組合は上道郡可知村製縄組合聯合會、同郡古都村産業組合等である。

生産者　上道郡古都村大字宍甘　小川英吉
同　可知村　石井新吾
同　西崎丈太郎

◉野草莚（フレックス）　年産額　二十五萬圓

野草莚は大正二年頃の開始にして、都窪郡早島町、赤磐郡瀬戸町、上道郡西大寺等に現在行はれ早島町尤も盛である。製織は工業なるも原料の製産は多く副業である。專ら輸出に供せられ、輸出はライス、ストローラッグスの名により本縣産は原料藁の品質佳良なるを以て、品質に於ては他の地方産の追隨を許さざるものである。

生産者　兒島郡粒江村　植木彌久太
都窪郡早島町　原清次郎
同　溝手鹿三
同　木村米造

◉備中箒　年産額　五萬圓

備中淺口郡鴨方村大字深田に産し、明治初年一老人の製作販賣に端を發し深田箒、鴨方箒と稱し、遂次發展して今日は備中の箒名稱を得るに至つた。阪神より關門に至る都市にて之が使用を見ざる所はない。福山市に於ける工場生産の棕梱模造製手箒の爲め競爭あれども、克く困難に打勝ちて名聲を博するに至つた。

生産者　淺口郡鴨方町大字深田　備中物産信用購買販賣利用組合

◉ビンヅト　年産額　一萬圓

大正十三年旱害對策として奬勵の結果、目下起りつゝある副業の一である。邑久郡玉津

村、大宮村を中心に發達して居る。將來は作州及備前方面に發展すべき傾向である。

生　産　者　　邑久郡大宮村上可知　　柴田鎭雄
同　　玉津村　　神坂康太郎

◉麥稈眞田　年産額　二百萬圓

明治十五年頃創初せられ、以來發展して今日に至り淺口郡小田郡を主産地とし、附近の諸郡に行はれて居る。淺口郡金光町に岡山縣眞田同業組合ありて眞田は數千の多種類に亘り、近來は內地向麥稈眞田の産出も豐富となつた。男女何れにも行はれ、又各階級の副業に適し、年により帽子の流行に變遷あるも、夏帽子の範圍は麻眞田麥稈布製品の外に出でず、再び循環して麥稈眞田に到來するものにして、之が製作地にては年による流行に對しては大なる恐を有しない、麥稈眞田は縣下の長さ十八丈を以て一反とし、六列九重に卷きて一束となす、眞田の巾はミリメートルを以て現はして居る。産地には數個の副業組合ありて共同販賣をなせるも、多くは仲買人及問屋の取扱ふ所となつた。淺口郡大島村麥稈眞田共同販賣組合は近來發展したる良組合に屬して居る。

生　産　者　　吉備郡新本村　　山本定次郎
同　　佐田野貞男
同　　下倉村　　中村秋太郎
同　　吉備郡穗井田　　藤原鶴吉
同　　藤原藤一郎
同　　吳妹村　　山下貝三郎
同　　岡本爲助
同　　木口嘉平次
同　　日名一郎
同　　守屋仙右衞門
同　　上房郡高梁町　　官野喜助
同　　川上郡成羽町　　川上鶴太郎
同　　都窪郡中洲村　　鹽津清三郎
同　　兒島郡福田村　　新見利平次
同　　淺口郡連島町　　池田富次
同　　淺野啓太郎
同　　平野利三郎
同　　板野源吉
同　　玄馬傳右衞門

淺口郡連島町　大熊綾之進
同　船穂村　淺野棟太郎
同　長尾村　頃末重右衛門
同　小野新一郎
同　富田村　石井兼松
同　石井角次郎
同　澤根辰吉
同　香西寛治
同　玉島町　高田慈佐雄
同　大島林吉
同　中塚榮
同　岡本京一郎
同　龜山初次郎
同　國富儀左衛門
同　柿本辰三郎
同　金光町　河手安太郎

淺口郡金光町　河手實治
同　河手重太郎
同　武都代
同　鍋谷龜五郎
同　久戸瀬林吉
同　片山榮藏
同　桑野常一
同　石橋松三郎
同　黒崎村　中野鹿市
同　中藤說次郎
同　小林篤夫
同　國崎善信
同　寄島町　三宅十七吉
同　山本伊助
同　三宅代太郎
同　六條院村　村上商店鴨方支店

淺口郡六條院村	矢切早太郎	
同	藤井恒右衛門	
同	佐藤一三	
同	佐藤重五郎	
同	山下岸一	
同	佐藤博一	株式會社頃未商店鴨方支店
同	畑金造	
同	鴨方町	田邊正雄
同	里庄村	大島清吉
同	大島村	廣常政太
同	小田郡神島內村	池田九市
同	今井村	仁料元平
同	吉田村	吉岡勝平
同		德山坂太郎
同		藤井伊三郎
同	大井村	石田久太
同		平田佐一
同		齋藤利一
同	金浦村	酒井理一郎
同		藤原勘次
同		松浦三郎
同		丸山良雄
同		森山熊一
同	城見村	篠原甚藏
同		松浦八九三
同		加藤由雄
同	陶山村	瀨戸貞男
同	北川村	藤谷惣兵衛
同		井上重四郎
同		名古屋宗次郎
同	新山村	入江芳太

小田郡小田町	小野敏二
後月郡荏原村	三宅文治
同	山野竹次郎
同　三谷村	山根光五郎
同	山根代次郎
同　山田村	萩原國松
同　美川村	江尻十吉
同　川面村	増田豊介
同	植田藤平
同　矢掛町	武シモ
都窪郡中洲村	板谷静一
邑久郡大宮村	岡本光太

◉麥稈帽　年產額　五拾萬圓

數年前より赤磐郡太田村に行はれ、專ら輸出に供せしが、大正十三年秋神戸市浪花町六四番地輸出入商信友組より縣下出身高岡謹太郎氏を派遣せられ、上房郡高梁町眞田同業組合と提携し、町村の旱害救濟副業奬勵と呼應して普及に努めし結果、高梁地方にて約五千名の從業者を出するに至つた。其他二三地方に行はれて居る。

生產者	
上房郡松山村	高梁帽體同業組合
勝田郡勝間田町	妹尾幾與

◉藺　草　年產額　參百萬圓

藺草は古來本縣に栽培せられ、都窪、御津、吉備、兒島、淺口の諸郡を主產地とし、小田郡、後月郡よりは特別なる太藺を產して居る、藺草は專ら花莚に供用するを主體として栽培せられ、全生產の七割は花莚用長藺に屬して居る、尤も最近は引通表の流行し此の方面にも長藺を漸次消費する傾向である。長藺生產額の內八一%は縣內に消費せられ、一九%は江州、遠州方面に移出せられて居る。縣下では農事試驗場と藺草同業組合とで專ら品種改良に意を用ひ、戞麗なる原種を作出し普及に努めし結果、面目一新し、他面新農具の採用とによつて栽培の勞費を節約せるは農業の進步にして、此點は誇るに足るべきものである。縣下の同業組合で定めし取引の單位及撰別の定尺を示せば、

長　藺	定尺　長さ三尺三寸以上のもの	一斤の量目	正味三貫
六尺藺	同　同　三尺三寸以下二尺五寸以上のもの	同　同	六貫
トボ藺	同　同　二尺五寸以下二尺以上のもの	同　同	四貫

屑蘭 定尺 長さ二尺以下のもの		斤の名稱なく實により取引す
生産者	御津郡白石村	河内常太郎 有限責任今村信用販賣購買利用組合
同	今村	大森喜一
同	都窪郡帶江村	帶江村農會
同	豐洲村字高須賀	大崎喜又
同	早島	古屋野太久治

◉花莚及上敷 年産額 六百萬圓

花莚は明治十一年頃に始まり、大正の初年迄は專ら輸出向の製造に從事せしが、今日は內地向に代り內地の需要が逐年增加し今日に及んだ。花莚の種類は輸出向なる機械織織り上げたるものに捺染を施し、又は施さずして輸出又は內地の用に供する目迫織專ら內地上敷にのみ用ひらるゝ諸目織と、輸出向は巾三尺長四十碼を標準とし、內地敷物用とする花莚は本間京間等の關係により巾に長短ありて本間(三尺一寸五分巾)三尺(三尺巾)五八(二尺九寸巾)二三六(二尺三寸六分巾)等の別がある。花莚は更に縱糸の本數によりて上下を區別するものにして、本數多きものが概して良品である。縱糸は三尺幅の本數を稱するものにして、巾の長短によりて換算せば實本數を知るを得るの習慣である。故に注文者は少くも次の如く明示するを得策として居る。

例 イ、三三 三尺目迫一本 (縱糸三百三十本の三尺巾目迫織花莚一本と云ふ意)

ロ、二四 五八諸目十本 (縱糸二百四十本の二尺九寸巾諸目織莚十本と云ふ意)

諸目紙の產地は御津、吉備、都窪、兒島の諸郡にして目迫機の產地は淺口郡である、花莚上敷は今より十五年前に初まり盛んに進展しつゝありて、從來は工業家の手に歸して居つたが、近來漸次副業として農村の間に行はれんとする傾向である。

生産者		青葉伊吉
同	妹尾町	合名會社淺越支店
同	中庄村	平松槇太 有限責任船穗信用購買販賣利用組合
淺口郡船穗村字船穗		三宅松三郎
同	河內村大字西河內	蜂谷壽太郎
御津郡一宮村		次田敬三郎
同	一宮村尾上	廣瀨嘉市
都窪郡中庄村大字中庄		村上正二
同		別府猪太郎
同		

淺口郡河内町大字西原	萩原賦一	
同　船穂村	中桐喜八	
都窪郡中庄村	平松槇太	
吉備郡足守町大字上足守	岡崎長治郎	
同　總社町	難波長次郎	

◉疊　表　年産額　三百六十萬圓

最近農商務省の統計によれば、廣島縣の疊表は三百七十萬枚、岡山縣の産額は三百三十萬枚である。縣下の産疊表は夙に早島表の名稱にて萬天下に其名を知られ、今日は堅實なる改善と一般向製品の統一に奬勵を加へつゝある結果、賣行は頗る良好である何れの生産地方にも殆ど共同販賣組合の設立を見るに至つて、一層市價を發揚した。疊表は他の副業品と異り、一度疊職人の手を通らざれば需要者の用に供せられず、爲に消費者の直接注文に乏しきも、消費地には産業組合副業組合等に於て取纒め注文を發せらるゝと共に、縣下に對し疊職の派遣を求められなば、極めて安價に疊を手にせらるべきを信じ、同樣の關係で疊麻をも斡旋して居る。

生産者	御津郡今村	有限責任今村信用販賣購買利用組合
	都窪庄郡村大字松島	有限責任松島信用購買販賣組合
	都窪郡村大字二子	有限責任松島信用購買販賣組合
同		鹽田米造
同　帶江村		帶江信用購買販賣組合
同		藤原市雄
同		藤原孫太郎
後月郡縣主村大字門田		無限責任縣主信用購買販賣利用組合
吉備郡庭瀬町		桐野初次郎

◉着莫座　年産額　四萬圓

都窪郡山手村を主産地とし。縣下以西へは拳骨型、以東へは東京型が歡迎せられ、從來多く北陸及東北へ移出せられて居る。

生産者	都窪郡山手村大字岡谷	守安儀平
同		新谷保男

◉藺　簾　年産額　五萬圓

大正元年頃都窪郡早島町綱島吉一郎氏の發明により、同町を中心に生産し。主に東京、東北、北海道、九州方面に移出せられ。競爭品たる竹製バイダラ製等あるも、使途を異にするを以て賣行に影響はないのである。

生　産　者　都窪郡早島町　網島吉一郎

◉蘭　枕　年産額　四萬圓

今より三十年前吉備郡阿曾村に起り。目下は吉備郡阿曾村、服部村、總社町、都窪郡加茂村等に行はれ。東北、北海道及四國方面に販出せられて居る。

生　産　者　吉備郡總社町　松尾幸太郎
同　阿曾村　赤木親治
同　服部村　倉森政治

◉蘭帽子　年産額　二萬圓

古くより製造せられ、藩制時代には岡山市在住士族階級の副業であつたが、四十年前岡山市分島商店の手によりて上道郡財田村、高島村等に擴められて今日に至つたのである。目下山陰、九州、四國方面に移出して居る。

生　産　者　上道郡高島村　田中國
同　服部幾野

◉圓　蓆　年産額　五千圓

大正七年頃より行はれ、岡山市、都窪郡倉敷町、妹尾町、早島町、兒島郡藤戸町、和氣郡香登村等に行はるゝ輸出品である。

生　産　者　都窪郡早島町　河合政三郎
同　齋藤婦貴子

◉荒　苧　年産額　十五萬圓

大麻の栽培は兩三年前までは、作付反別約五町歩に過ぎざりしが、大正十三年旱害對策奬勵の結果、一躍百町歩に達し、縣内には年々疊表縱糸たる荒苧及黄麻の輸移入十萬貫なるものを漸次奬勵により自給せしむる豫定である。吉備郡を主産地とし品質は敢て栃木縣産に劣らずといふ。

生　産　者　吉備郡阿曾村　林福次郎
同　日近村　金草諸一
同　岡田村　伴悅雄

◉姫　糸　年産額　七十萬圓

姫糸は荒苧を以て製する疊表縱糸である。疊表地方及岡山市の副業であるが、大麻栽培地では漸次普及し、遠からず縣外移出需要に應ずべき趨勢である。吉備郡姫糸生産販賣組合(吉備郡役所内)良品を多産して居る。

生　産　者　吉備郡岡田村　伴悅雄
同　總社町　寺岡續太

吉備郡阿曾村　林　松男
同　高松町　省松　利登
同　日近村　金草　初五郎

◉ラフイヤ蓙布團及打はらひ

都窪郡早島町矢吹貫一郎氏の獨占事業なるも、同氏の義狹により上房郡、川上郡地方にも多くの副業職工を有し盛に製出しつゝあるが、此種農村工業は稀に見る模範生産と稱してよい。蓙布團に製したる廢物を以て打はらひを作るのである。

生産者　上房郡高梁町　高橋利一

◉岡山梨晩三吉　年産額　四十五萬圓

岡山梨晩三吉種は產額頗る多く、且品質冠絕たる事各地の追隨を許さざるものである。岡山縣果物同業組合は十六週年を經過し、益々管內所在の支部を督勵し聲價の發揚に努めし結果、關西方面の都市有名なる果物店には殆ど本種を見ざるものはない。晩三吉は外觀惡しく、賣行惡しかりしが、撓まざる宣傳の結果品質良好なる事を認められ、今や大都市には新しき果物として年と共に需要增加して居る。生產地は上道郡雄神村、兒島郡八濱町にして、小田郡、淺口郡、赤磐郡、邑久郡等である。

生產者　岡山市內山下三〇番地ノ七地　岡山縣果物同業組合

◉西洋梨　年產額　五萬圓

西洋梨は外觀惡しく賣行惡しかりしが、撓まざる宣傳の結果品質良好なる事全國の主位となつた、今や大都市にて新しき果物として年と共に需要が增加した。縣南地方一帶に產出し、品種の主なるものはプレコース、バートレット、クラッサム等である。

生產者　岡山市內山下三〇番地ノ七地　岡山縣果物同業組合

◉富有柿　年產額　一萬圓

縣下各地年と共に著しく增加しつゝあり、坂神では縣下の富有柿によりて相場の建をなすにより て、良質多產なることが知れらる。

生產者　岡山市內山下三〇番地ノ七地　岡山縣果物同業組合

◉其他の果物の品種產地

梨（廿世紀）　上道郡雄神村、兒島郡八濱町、小田郡矢掛町、淺口郡富田村
桃（白桃）　御津郡馬屋下村、馬屋上村、平津村、横井村、野谷村、牧石村、赤磐郡西山村、小田郡今井村、新山村、淺口郡富田村、金光町、里庄村
葡萄（キヤンベルスアーリー、三尺、甲州）　上道郡浮田村、雄神村、角山村、赤磐郡西高月村、邑久郡太伯村
同（温室葡萄）　御津郡横井村、野谷村

◉無花果乾果　年產額　七百圓

生產者　小田郡城見村　大本孝太

◉薄荷取卸油　年産額　五百萬圓

今より百年前後月郡の人江戸より種根を移植せしに初まり、最近は一般的需要の増進により急増して産額を倍加し、現在は縣南地方一帯に栽培を見るに至つた。從來は農家は葉子を地方取卸油製造家の手に販賣せしが、今は小組合を設けて製造をなすものが著しく増加した。取卸油は腦分含有量の多少によりて相場を異にし、標準は五十五%である。

生産者		
邑久郡本庄村	内田太十郎	
同　福田村	松原駒太郎	
同　太伯村	田淵喜太郎	
小田郡大井村	水田五二	
同　美川村	阿邊五平	
同　小田村	日置定太郎	

◉除虫菊　年産額　八十萬圓

明治二十二年小田郡の人紀州より種苗を購入栽培せしに始まり、大正六年頃より頗る栽培反別を増加し以て今日に及んだ。花の儘又は精粉となし、又は線香となして内地及海外に販賣せられて居る。小田郡、淺口郡、後月郡を主産地として居る。

生産者		
小田郡城見村	小川俊太郎	
淺口郡大島村	島村美代吉	
同　黒崎村	道廣松兵衛	
同　寄島町	佐藤柏太郎	
小田郡笠岡町	岩山粂太郎	
同　北木島	河田榮一	
同　城見村	小川彌十郎	

◉蒟蒻荒粉及精粉　年産額　八十萬圓

縣下の蒟蒻の栽培は川上郡を主位とし、其他後月、阿哲、眞庭の諸郡に行はる。荒粉は農家の副業として行はれ、精粉は工業家の中に依りて行はるゝも十四年國庫補助を得て川上郡農會は壹萬餘圓の經費を投じ、荒粉及精粉の乾燥裝置をなす事となつた。蒟蒻は食用の外糊用、化粧用、凝革紙等工業原料として大に用途を擴め將來有望なる作物である。蒟蒻生球及荒粉は貫を以て取引の單位とするも、精粉は一駄(正味四十五貫)を以て單位として居る。四俵に分包し、品質は本縣同業組合(川上郡牛莊村に在り)の定によりて三種に分ち松、竹印等は之である。

生産者	

荒粉	後月郡芳井村	河合良一
同	川上郡富家村	原田角太郎
同	同	松浦武市
同	同　牛莊村	加藤鶴藏
同	同	大塚代五郎
精粉	後月郡芳井村	藤井精樹
同	同	藤井秀次郎
同	川上郡牛莊村	淺野金右衛門
同	同　富家村	原田角太郎
同	同	松浦武市

◉乾饂飩及素麵　年産額　二百萬圓

麥種は畠田小麥、チンコ小麥を多く栽培し、素麵は淺口郡、乾饂飩は淺口、小田、後月郡等を主産地とし。種類は器械製、手延製の二種にして、産額は大製産地たる播州素麵に讓らず。備中方面では同業組合を設置し、品質の改良販路の擴張に努めし結果、著しく進歩を遂げ、需要も年次增加するに至つた。販路は關西、九州、四國、山陰、山陽、北陸、鮮滿等である。

生産者　淺口郡鴨方町　中備素麵同業組合

◉唐草織（ウイロー、シーツ）

帽體蕊其他の用途の爲め製せられ、輸出に供せられて居る。縣下では原料豊富なれば近來盛に行はれ、從業者千名に近く上房郡高梁町、津川村、苫田郡津山町、邑久郡鹿忍町に行はれて居る。

生産者	
邑久郡鹿忍町	大倉吉助
上房郡津川村	德田慶之助
苫田郡津山町	小橋德三郎

◉桐箱類　年産額　五千圓

農林省囑託加藤喜作氏の傳習によりて、大正十三年より上房郡高梁町に生れし有望なる新しき副業である。縣下備北の地一帶に桐を産し、下駄材の廢物は高梁町に集散するものでも莫大の數字に上り、之を加工せば五拾萬圓に達するの見込にて、將來副業者の養成と、販路の開拓を成すを得ば、前途頗有望である。業者は組合を組織し、生産を分業とし販賣を統一して業況の發展を期して居る。目下注文に接せるは備中稻山お守箱（一ヶ年參拜者七十萬人お守の出高一日百乃至二百）全驛構内岡山縣副業販賣所土産品（玩具切手箱、裁縫箱、火鉢）等である。

◉齒朶細工　年産額　千圓	生産者	上房郡高梁町　高梁桐材加工組合

縣下吉備郡は齒朶の主産地である。從來は原料を産するのみで、製品の作出なかりしが、兩三年前副業奬勵として吉備郡池田村に實用的製品の傳習を行ひしより漸次堅實の發展をなして居る。能力は到底莫大なものである、故に十四年以降は相當多量の輸出品に對しても商談に應じ得らるゝのである。從來の販路は岡山市が主である。

	生産者	吉備郡池田村齒朶　平田仙太郎

◉木炭　年産額　三百萬圓	生産者	英田郡木炭同業組合
		阿哲郡木炭同業組合
		眞庭郡木炭同業組合

縣下の北部地方山間農家の主要なる副業である。近來主産地にては何れも同業組合を設け、製品の改善を計り名聲大に揚るに至つた。從來黑炭は多く縣内に消費せられ、白炭は坂神、四國方面に移出せらるゝ習慣である。縣は木炭の改良として備長式、折衷式、伏燒式、大正式の奬勵をなし、近次生産者の改良增産をなすものが多い。現今同業組合を設置せる地方は左の如くである。

英田郡林野町（郡役所内）	英田郡木炭同業組合
阿哲郡新見町（郡役所内）	阿哲郡木炭同業組合
眞庭郡勝山町（郡役所内）	眞庭郡木炭同業組合
苫田郡津山町（郡役所内）	苫田郡木炭同業組合
川上郡成羽町（郡役所内）	川上郡木炭同業組合

	生産者
御津郡宇甘西村	宇甘西村副業組合
阿哲郡草間村	松永次郎
同　矢神村	羽場一義
同　豐永村	時光重太郎
同　丹治部村	松井千代雄
同　熊谷村	森谷梅三郎
同　新砥村	田邊利夫
同　千屋村	田中繁穗
同　新見町	小林純平
同　上刑部村	赤木幸太郎
同　美穀村	小林只一
同　新見町	小林幾次郎
同　神代町	渡邊龜太郎

眞庭郡勝山町　浪本熊五郎
同　英田郡林野町　影山正夫
川上郡手荘村　英田郡木炭同業組合
同　藤本二三夫
同　藤本彦市
同　金高德太郎
苫田郡阿波村　佐々木多賀照
同　富村　池田喜市
同　爲本源市

◉葛　年産額　二萬圓

眞庭苫田郡に產し、古くより行はれて居る。京阪地方及土產品に販賣されて居る。

生產者　眞庭郡勝山町　長尾彦次郎
苫田郡上加茂村　知和副業組合

◉五倍子　年產額　三萬圓

人工植栽あれども、主として天然生のものを採集す、產地は眞庭、苫田、阿哲、川上、久米の諸郡とし。從來阪神並に東京府に移出されて居る。

生產者　苫田郡上加茂村　內田龍平

◉東雲漬

苫田郡の山地に生ずる香氣馥郁たる特產獨活、スゞ苟等を原料として漬物としたる食味風流なる珍らしき嗜好食料品である。奈良漬に類似し數十年來行はれ、土產品及地方一般の食膳に供せられて居る。

生產者　苫田郡加茂村　牧孝太郎

◉竹細工類　年產額　十六萬圓

竹刀は上道郡財田村に行はれ、竹籠は久米郡三保村、御津郡宇甘西村、吉備郡福谷村に行はれ、美術竹器は苫田郡津山町に行はれて居る。津山美術竹器は最近長足の進步で、原料材又地方に多きを以て頗る有望とせられ、近次各地に販路を求めて居る。御津郡宇甘西村にては大正十三年旱害救濟副業奬勵として行ひ益々發展に向つて居る。

生產者
竹籠　御津郡宇甘西村　宇甘西村副業組合
同　久米郡三保村　和田直藏
同　苫田郡津山町　津山竹器商會
竹刀　上道郡財田村　三木熊市

竹　刀　　上道郡財田村　　吉崎　薫

◉香　茸　年產額　一萬圓

北部山間地方にて之が發生を見、就中阿哲、眞庭、苫田の諸郡を其主產地として居る。主に地方消費に供せられ、又坂神地方に送られて居る。

生　產　者　阿哲郡神代村　小倉細太郎

◉松茸罐詰　年產額（松茸）三十萬圓

縣下中央以南一帶に松茸を產し、縣下の諸茸類中の最たるものである。井原町、矢掛町を主要取引地とし、上は京阪神より下は關門方面に販出せられて居る。近來多產の傾向に鑑みて罐詰製造が益々盛んになる傾向である。

生　產　者　岡山市岩井町　御津郡農會

◉椎　茸　年產額　二千圓

目下奬勵の當初に屬し、產額多からざれども、適地極めて多く、將來頗る有望なるものに屬して居る。

生　產　者　阿哲郡新郷村　渡邊源太郎

◉眞　綿　年產額　一萬二千圓

從來多少の生產があつたが、三年前蠶業試驗場に於て長期眞綿敎師養成講習會を開催して以來、急激に各地に多產するに至つた。蠶業の發展に伴ひ逐次增進するに至つた。

生　產　者

眞　綿　眞庭郡河内町　渡邊源次郎

同　苫田郡香々美南村　小林八重子

同　勝田郡勝間田町　岸本重郎

眞綿加工品　邑久郡太伯村　近藤一子

◉和　紙　年產額　二十六萬圓

縣下の生產和紙の種類は頗る多く、藁半紙は夙に名聲を博せしが、機械製紙の打擊を蒙り、副業生產は漸次減退の傾向である。然れども其の他の半紙は多く副業として行はれ、同業者は工業試驗場の斡旋により研究會を設置し、改良大に努むる處があつて相當の地位を保有するに至つた。工業試驗場にては夙に研究を重ね、各種和紙の研究指導をなす外、最近は藺草の廢物より紙を作出する事を發明した。

生　產　者　川上郡湯野村　平井實夫

同　阿哲郡上市村　宮本松太郎

同　武田義一

◉雨　傘　年產額　四萬圓

番傘は苫田郡津山町に行はれ、三百年の歴史を有し、蛇の目は上房郡有漢村に行はれ、大正十三年旱害救濟副業として奬勵の結果行はるゝに至つた。番傘は神戸に販出せられ、蛇の目は目下の處縣内に販出せられて居る。

生産者　苫田郡津山町　村瀨集六
同　上房郡有漢村　村瀨甚太郎
　　有漢副業組合

◉線香　年産額　十四萬圓
古くより行はれ各地に販出せらる。淺口郡及上道郡を主産地とし、淺口郡に於ては近來機械によつて薫香蚊取香を製出する樣になつた。

生産者　上道郡津田村　森本幸次郎
淺口郡長尾村　小野要七
同　小野榮太郎
　　安藤源七

◉藁莚　年産額　十二萬圓
生産者　御津郡宇垣村

◉兎皮　年産額　一萬五千圓
苫田郡津山町、眞庭郡久世町にて生産されて居る。

生産者　苫田郡津山町　平井石次郎

◉蜂蜜　年産額　一千圓
生産者　邑久郡豊原村　岩井實太

◉模造パナマ帽　年産額　二萬二千圓
生産者　和氣郡片上町　大西岩吉

◉石筆　年産額　二十萬圓
原料は遠く滿鮮地方から求められて居る
和氣郡片上町　岩崎柳七

◉高麗狗
備中の國吉備津神社の古來よりの土産品である。
生産者　吉備郡眞金村　淺沼男登治

◉水引細工　年産額　二萬圓
生産者　岡山市橋本町　清水福次郎

◉特殊敷物
特許品其他特殊敷物を製造して海外に販出して居る。
生産者　都窪郡早島町　矢吹貫一郎

OKUSANKICHI
年産額 30000000貫余
特産
福山の梨
福山下相生町
福山縣物産株式會社
電話長一二七一
振替大阪一五五六

廣島縣

◉眞綿　年産額　二十三萬五千圓

縣内生産地は福山市及神石郡で古くから製造せられ。近年講習會を開き技術指導の結果、縣内養蠶家に於て漸次製造するに至つた。販路は主に大阪近縣及九州方面である。

生産者　福山市桶屋町　河井林太郎

◉漉海苔　年産額　六十萬五千圓

廣島海苔は淺草海苔に次で名を知られ、古く慶長年中に於て既に其の記錄がある。爾來漸次養殖を盛にし改良に腐心し、今日にては廣島市、佐伯郡草津町、安藝郡仁保村を主産地とし、柴菜養殖面積六十二萬坪に及び、製品の販路は神戸、大阪、京都、下關を主とし其他各地に及んで居る。

生産者　安藝郡仁保村　森本直太郎

◉除虫菊乾花　年産額　百九萬八千圓

明治二十七八年御調郡にて栽培を始め、日露戰役後急に增加し、現在御調郡、豐田郡、安藝郡、賀茂郡、沼隈郡、深安郡の島嶼及沿海部に盛に産出す。販路は神戸、大阪及和歌山縣を主として居る。

生産者　尾道市土堂町

◉髢　年産額　百三十萬五千圓

生産地は安藝郡矢野町で、同地に於ける製造の濫觴は古く寶永年間であつて漸次發達し、明治三十二年頃から外國輸出品となり、日露戰役後更に一大發展を來し、輸出額大に增加せるのみならず、內地各方面にも販路を有するに至つた。

生産者　安藝郡矢野町　河原長造
同　宇都宮善松
同　宇都宮國三郎
同　伊藤兼吉
同　石突正一

◉毛筆　年産額　百三十一萬一千圓

古くから各地に製造せられしが、安藝郡熊野町に發達したのは天保以後で、明治に入り長足の進歩を來したものである。主産地は安藝郡熊野町を中心に數ヶ村廣島市、及賀茂郡川尻町で、全國は勿論滿鮮地方に盛に輸出して居る。

生産者　安藝郡熊野町　熊野工親會
同　熊野生産筆奬勵會
安藝郡熊野町　筆問屋組合
賀茂郡川尻町　菊谷三藏

◉瓶苞　年産額　五萬五千圓

從來安藝郡海田市町を中心とし、明治三十九年頃から創始せられしが、奬勵の結果豐田郡、賀茂郡地方にも發達して居る。販路は九州、臺灣、阪神方面である。

生産者　安藝郡海田市町　常本正三郎

◉木炭　年産額　五百萬五千圓

古くから製造せられしが、近時奬勵指導の結果品質優良となつた、殊に縣を五區域に分ち各同業組合設置され、更に面目を改め產額も增加するに至つた。山間部地方の各地に產するも比婆郡及双三郡は白炭、佐伯郡及山縣郡は黑炭の主產地で、大阪、神戸、山口、岡山、東京へ輸送されて居る。

生産者
白炭　比婆郡本村　樽和一
同　山內北村　中元孝一
黑炭　佐伯郡廿日市町　廣島縣佐伯郡木炭同業組合

◉宮島細工品　年産額　七十萬圓

寛政年間以後遊覽客相手の小製作品を製作販賣し、文久年間に轆轤を開始したので一層盛となり、維新後漸次外國輸出の途を開き其の生産を增加した。種類は挽盆其他の挽物細工及杓子等の木工品を主とし、內地各遊覽地にも多數の移出をなして居る。

生産者　佐伯郡嚴島町　宮郷忠兵衛

◉羊齒細工品　年産額　二萬八千圓

主産地佐伯郡大野村に於て、明治二十二三年頃農家の副業として始めしものが漸次發達し、現今は大阪、京都、九州及米國に販賣して居る。

生産者　佐伯郡大野村　中丸軍三
同　中丸イワ
同　中丸千鳥

◉木履　年産額　二百十五萬圓

桐木履の主産地安佐郡落合村は、今より二百年前既に盛に生産しつゝありし記錄がある。沼隈郡松永町の栓及桐下駄は北海道材移入後に始まりしもので、現在は販路廣く內地各方面は勿論支那、朝鮮、臺灣にまで及んで居る。

生産者　安佐郡落合村　廣島川上木履製造組合
沼隈郡松永町　丸山茂助

◉麥稈眞田　年産額　三十八萬一千圓

明治二十四年頃岡山縣より敎師を招き講習を爲せしに始まり、爾後深安郡、吳市を中心とせる地方に發達し、製品は殆ど神戸を經て海外に輸出せられて居る。

生産者　深安郡坪生村　酒井理一郎
同　八尋村　樋上樹世
同　大津野村　矢田貞一
同　中藤武
同　中藤新治
同　藤井金三郎
同　小笠原一文
同　藤井八百治
同　坂田仲藏
同　藤井登志
吳市寺西町　高尾一郎
同　三城通　坂田源十
同　岩方通　藤井八左衛門
同　神田町

呉市草里町

◉建具　年産額　五十八萬二千圓

廣島市は古くから專業者によりて製作さるゝも、郡部に於ける甲奴及世羅郡の主産地に於ては寶暦年間の創始である。製品は四國、九州及阪神地方に販出せられ、産額益々增加の傾向である。

生産者　世羅郡東村　松本萬右衞門
甲奴郡上下町　福永兵太郎

◉絣木綿及タオル　年産額　百八十八萬六千圓

三百年の沿革を有し往時は手紡糸を用ひ、農家の副業として發達し。現今は賃織として備後東部の農村に汎し、産額五十五萬反に及び、備後絣と稱し廣く各地に販路を有し、特に大阪、京都、東京、山口、島根縣は其の主なるものである。

生産者　蘆品郡府中町　淺野德太郎
同　杉原合名會社
同　國府村　橘高喜一
同　網引村　宮後久吉

◉桐箱　年産額　三萬六千圓

起原詳ならず、芦品郡府中町を中心に生産せられ。主として大阪に移出して居る。

生産者　芦品郡府中町　芦品桐箱製造組合

◉疊表　年産額　五百二萬圓

起原は頗る古く、後奈良天皇の朝天文年中より製織を初め、福島、淺野兩侯により奬勵せられ、備後國沼隈郡、御調郡及尾道市に發達せしもので。近時縣に於て各地に奬勵の結果、安佐、双三、山縣、豊田、安藝、世羅郡に優良なる表の産出を見、全國殊に東京、大阪、京都に需要多く、臺灣及朝鮮等殖民地に多量の移出をなすに至つた。

生産者　沼隈郡松永町　備後本口疊表同業組合
尾道市久保町　備後本場疊表同業組合
双三郡三次町　双三郡農會
安佐郡祇園村　山本悟

◉花莚及莫蓙　年産額　七十八萬七千圓

莫蓙の起原は疊表と同じく、花莚は明治十六七年頃に創り、漸次發達し外國輸出をなすに至り、益々旺盛となり今日に及んだのである。莫蓙及短尺花莚は内地各方面へ、廣巾花莚は神戸經由北米合衆國に輸出され。主産地は沼隈郡、御調郡及安佐郡である。

生産者　沼隈郡柳津村　廣島縣花莚同業組合

◉藺及藁稈細工品　年産額　三十七萬二千圓

明治以前より帽子編笠の類を生産したるも、輸出向は明治二十年頃より漸次改良して新品を作つて注文を集めて居る。現今は福山市及沼隈郡を主産地とし、多くは外國輸出品で英米が主なる販路である。

生産者　福山市東霞町　貫井正位
　　沼隈郡西村　佐藤吉郎

◉美術竹製品　年産額　八萬五千圓

主産地は廣島市、芦品郡府中町を中心とせる地方及比婆郡庄原町で、內地向及輸出品である。而してこは近時漸く發達せしもので、縣內阪神地方及米國に輸出して居る。

生産者　芦品郡岩谷村　山內芳郎
　　同　廣谷村　志田代一
　　比婆郡本村　岩戸太郎
　　同　庄原町　木場茂
　　同　竹中庄吉
　　同　廣田怡三

◉竹細工飯入　年産額　七萬五千圓

古くより製造せられたもので、販路は大阪、四國及岡山縣下である。主産地は甲奴郡、双三郡である。

生産者　甲奴郡甲奴村　折口禮次郎

◉縫針　年産額　百六萬九千圓

凡そ二百年前長崎より製法を傳へ、爾來總て手工に屬せしが、明治三十年頃一部の機械を据付け、初めは全部和針の製造に限られたのであるが、大正三年歐洲戰亂突發するに至り、洋針の支那輸出をなすに至つて今日に及んで居る。販路は內地各地、朝鮮、支那、印度が主なるものである。

生産者　廣島市天神町　青木瀧次郎

◉和紙　年産額　九十六萬九千圓

沿革遠く農家の副業として製造せられ、佐伯郡大竹町、木野村、芦品郡阿字村、甲奴郡田總村、比婆郡庄原町、高田郡有保、秋越村が主なる産地である。歐洲戰後は西洋紙の輸入杜絶せるに及び頓に活況を呈し、其の製造一層盛なるに至つた。現今は東京、京阪、九州、四國、朝鮮に販路を有して居る。

生産者　芦品郡阿字村　中村龜一
　　同　森田禎一

佐伯郡大竹町　中田清吉
甲奴郡上下町　渡邊常三郎
比婆郡庄原町　廣田怡三
高田郡有保村　上田準一

◉山繭織

縣下の特産品にして、享保年間安佐郡に於て諸紬を製織したのが嚆矢である。後木綿糸を經糸とし、山繭手挽糸を緯糸としたる横紬を織出すに至り、同地方農家の副業として熾んとなり、爾來改良を加へ今日に至つたもので。京阪、東京、九州、四國に販路を有し廣く販賣されて居る。

生産者　安佐郡可部町　廣島山繭紬織株式會社

◉籐製品　年産額　六萬圓

廣島市に於ては、明治廿二三年頃より郡部の主産地たる佐伯郡鹿川村、中村にては大正五年より始め、漸次發達して今日に及んだ。製品は主として大阪及九州に販出し、近縣の需要も亦多くなつた。

生産者　佐伯郡鹿川村　伊木萬三

◉麻糸　年産額　三十五萬圓

縣下に於ける麻糸の起源は、三百年以前より農家の副業として現在の主産地たる安佐郡三川村に起り、漸次附近町村に傳はつて今日に及んだものゝやうである。而して三川村の外川内、綠井村は現在其の主産地である。漁網用として各地沿海地方及島嶼部に輸出せられて居る。

生産者　安佐郡三川村　河野嘉市
同　橋本省吾

◉大麻　年産額　荒苧二十二萬七千圓　扱苧三十八萬三千圓

古くから栽培せられ、今より七百有餘年前既に麻を製造せる記録がある。其後次第に産額を増加し、又製麻をなすものが生じ、現今は安佐郡三川村及山縣郡安野村、双三郡十日市町が其の主産地である。製麻と共に同地方は麻糸の生産が盛んで、殆んど全部製糸の上各地に販出して居る。

生産者
晒苧　双三郡十日市町　岡田松吉
扱苧　安佐郡三川村　河野嘉市

同　安佐郡三川村　橋本省吾
同　山縣郡安野村　竹内貞
績苧　安佐郡三川村　橋本省吾

◉蒟蒻荒粉及精粉

天保年間始めて栽培を始めしものゝやうで、爾來山間部に發達し、縣内神石郡を其の最も良く發達したものとして居る。荒粉及精粉は農家冬期の副業として生産せられ。製品は岡山縣に移出せられて居る。

生産者　神石郡油木町　神石郡蒟蒻販賣利用組合

◉椎茸　年産額　二萬八千圓

古來自生のものを採取乾燥して需要を滿しつゝありしが、縣に於て指導の結果、近年其の栽培を行ふに至り、稍々産額を増加するに至つた。主産地は山縣郡、佐伯郡、比婆郡の山間部にして、東京、横濱及近縣へ販賣されて居る。

生産者　比婆郡八鉾村　織田龜市

◉柿澁　年産額　二十一萬二千圓

縣下の主産地は御調郡中庄村である。柿澁の沿革は最も古く、既に慶長年間に之を開始し、大阪地方へ販路を求めしもので、三百有餘年以前のことに屬して居る、其後製法に苦心改良して今日に至りしもので、三庄村の外同郡栗原町は其主産地である。販路は東京、大阪、神戸、名古屋其他全國に及んで居る。縣の特産品として居る。

生産者　御調郡中庄村　村上竹吉

◉密柑及レモン　年産額　九十六萬圓

栽培の起源詳ならずと雖も、現今樹齢三百七八十年を下らざる老樹各所にあり、之より推せば約四百年前既に其の産出せしことが知られる。レモンは明治三十六年大分縣より移つたものである。現今密柑は本縣沿海及島嶼部、レモンは豊田郡に多量に産出し、内地各地及朝鮮、支那に輸出するに至つた。

生産者

密柑　豊田郡久友村　沖友信用購買販賣利用組合
レモン　同　大長村　豊田郡柑橘同業組合大長支部

◉玩具　年産額　一萬圓

挽物玩具は最近佐伯郡廿日市に發達せしもので。創始以來日尚淺きにも拘らず、東京、大阪等の都市に賣出して好評を博するに至つた。

生　産　者　佐伯郡廿日市町　堀田眞造

◉晒楮皮　年産額　八萬圓

古くから芦品郡に於て自家用製紙原料として、晒楮皮を作りしを販賣するに至つたものゝやうである。現今は岐阜及四國等製紙地方へ販賣されて居る。

生　産　者　芦品郡阿字村　村上文二郎

◉乾無花果　年産額　二萬圓

十數年前より深安郡川口村に於て製造を始め、漸次其の産額を増加するに至つた。製品は京阪及關門地方へ販賣されて居る。

生　産　者　深安郡川口村　鼓字一郎

◉籐　表　年産額　一萬五千圓

吳市及御調郡因島に於て數年前奬勵を加へたるに始まつたのである。現今は縣内消費に止まるも漸次生産額を増加して居る。

生　産　者　吳市清水通　平岩商店

同　八幡通　岡田種次郎

◉和　傘　年産額　七十九萬一千圓

古くより廣島市に産し、廣島傘の名聲は各地に知らるゝに至つた。生産品は内地各地特に山口、大分、岡山縣及臺灣、朝鮮、支那に販出されて居る。

生　産　者　廣島市西地方町　廣島傘信用販賣購買組合

◉漁網地　年産額　百三十三萬四千圓

福山市、深安郡、安藝郡、賀茂郡、吳市が其の主産地である。各地漁業者により古くより製造せられたものであるが、今を去る二百五十年以前より賀茂郡阿賀町に商品として作り出されたるを發達の創始である。爾來漸次盛大に赴きて明治中頃以後各地に會社起りて其後産額は激増し、九州及中國各地に販路を有するが朝鮮にも移出されて居る。

生　産　者　賀茂郡廣村　大石慶三郎

沼隈郡鞆町　鞆製網合名會社

◉麵　類　年産額　四十七萬五千圓

沿革は詳ならざるも、主産地は廣島市、豊田、御調、深安、芦品、賀茂の諸郡等にして、年々産額は増加されて居る。

生　産　者　深安郡加茂村　加茂製麵同業組合

◉切干甘藷

縣下の切干甘藷の主産地は御調郡重井村にして、九州地方及縣内の需要に充てられて居る。

生産者　御調郡重井村　柏原正夫

農村の振興は副業の奬勵にあり

組合の要諦は販賣品の加工にあり

組合員の足袋製造　壹ヶ年　七拾萬圓

組合品の花莚製産　壹ヶ年　五拾萬圓

組合の花莚加工　壹ヶ年　貳拾萬圓

乞ふ一回の照會を吝む勿れ

岡山縣淺口郡船穂村

船穂信用購買販賣利用組合

玉島驛電話三二番

品質精良價格低廉

加速度の發達は日夜の努力に依る

月刊雜誌

副業

各種の副業に關し毎號專門家の指導を實際に行はれてゐる事例が掲載されます

發行所　東京市麹町區内山下町一ノ一

日本産業協會

振替東京三六六六〇番

防長木炭

統一區域……山口縣全圓
組合員數……壹万八百名
炭材林面積……貳拾五万町歩
一ヶ年生産量……貳百參拾万俵
管外移出高……八拾万俵
專務檢査員……七拾六名
專務監督員……五名

勵行事項

特品……質改善
撰別……嚴正
量目……正確
焦裝……完備
研究……指導

ニ燒炭根絶

山口縣吉敷郡山口町

防長木炭同業組合

電話……振替
長三……四八
三二……七六番

山口縣

◉鹽　叺　年産額　百六十四萬枚　二十一萬六千圓

縣下には由來多くの鹽田を有する關係上製鹽關係廳等の奬勵聲援もあり、主として周防國各郡の南部地方に於て之れが製造に從事し、大正三年頃迄は多くは鹽菰を製造供用せしも、鹽の漏洩甚しく爲めに漸次織機に依る鹽叺製造に改良せられしと同時に其生産は共同組織に依りて檢査の勵行、製品の統一を圖るに至つた。近時縣は織機の購入に對し補助政策を樹つるの外、傳習指導を行ひ斯業の進展を期して居る。製産品は總て縣内鹽業組合と取引されて居る。

生産者　熊毛郡光井村　光井村鹽包裝改良組合
佐波郡富海村　無限責任富海購買販賣組合

◉繩　年産額　二十八萬二千圓

藁工品は縣下の主要品であつて、各地に古くから農家では手掏に依る自家用又は漁業用として製出せしも、時代の進運に伴ひ梱包用其他一般需要が增し、一面機械的作業の勃興と共に、今や特殊供用品の外は殆ど器械製繩に改良せられ、大正八九年頃より組合を設置し奬勵の結果、漸次共同組織の機運を促進するに至つた。販路は縣内並に

廣島、九州方面である。

生　産　者　玖珂郡新庄村　吉敷郡秋穂村　田中金吉

◉荷造菰　年産額　十二萬枚　七千五百圓

主として熊毛郡東南部から産する農家婦女子の副業に依るものであつて、從來の莚織機を用ひ製作し、其の製品は縣内及廣島地方に仕向られて居る。

生　産　者　熊毛郡田布施町　吉見清三郎

◉瓶　菰　年産額　一萬二千枚　四百八十圓

玖珂郡新庄村から産出し、甘露醤油瓶包裝用に同郡柳井町當業者に仕向られて居る。

生　産　者　玖珂郡新庄村　副業品組合

◉鰻　苴　年産額　五十萬個　二千五百圓

從來豊浦郡黒井村附近の婦女子の副業として製作せられ、大正十二年頃より傳習指導等奬勵の結果、擴く同郡海岸地方並に門司サクラビール株式會社に仕向られて居る。

生　産　者　豊浦郡吉見村　金田八十一

◉繩　簇　年産額　六萬個　一萬八百圓

主として玖珂郡地方に於て製作せられ、蠶の上簇用として縣内廣島縣及福岡縣地方に仕向られて居る。

生　産　者　玖珂郡岩國町　門田増吉

◉疊　表　年産額　二萬八千九百枚　三萬五千圓

縣下の藺莚業は古き歴史を有し、阿武郡の北部及熊毛郡平生地方のものが其の創始である。明治の末年頃から相當の指導者を設置して奬勵を加へし結果、漸次玖珂、都濃、豊浦、美禰、大津各郡の地方に及ぼし、共同組織の下に逐年産額も増大せしが、時勢の變遷、財界の動搖等に依つて一盛一衰今日に至つた。製品は現今縣内に於て消化されて居る。

生　産　者　熊毛郡平生町　堅ヶ濱藺莚組合　吉浦庄吉
豊浦郡檜崎村　藺莚組合長　米原惣兵衛
大津郡菱海村　藤本龜一
同　日置村　柴田ハツ

◉七島表並に青莚　年産額　九千六百圓

本業は主として玖珂郡柳井町宮本部落で行はれ、同部落は海岸に接し鹽分を含有する地質であるから、芏苡の栽培に適す、青莚は古來より當部落に於て副業として從事し、今より五十年前には産額も相當大なりしが、時代の變遷に伴ひ從業農家の減少するに

至りも、大正八九年頃より縣は之れが復活を奬勵し、殊に共同組織の下に事業の進展を促し、大正十一年青莚副業組合を設置以來遂年隆盛に趣いて居る。販路は主として縣内である。尙青莚は豐浦郡の一島嶼にも古くから生産するも産額は僅少である。製品は主として縣内、廣島、朝鮮方面に仕向られて居る。

生産者	玖珂郡柳井町	青莚副業組合

◉蠶綱　年産額　二萬三千五百枚　二千二百圓

主として玖珂郡、佐波郡地方を中心に生産され、養蠶業の普及と相俟つて益々需要も多いので、縣は大正十二年來縣下各所に之れが實演指導を開き、斯業の普及に努めて居る。製品は自家用並に縣内養蠶業者に仕向られて居る。

生産者	玖珂郡愛宕村	廣兼忠兵衛
同		村重甚吉
同		重田初房
佐波郡出雲村		上庄方手工會

◉蜂蜜及蜜蠟　年産額　二萬八千二百圓

本事業は古から放置副業として縣下蜜源の豐富な地方に行はれて居る。生産する蜂蜜及蜜蠟の販路は主として縣内及阪神地方である。

生産者		
蜂蜜	吉敷郡宮野村（松田のはちみつ）	松田與一
蜂蜜及蜜蠟	佐波郡出雲村	中村良禪

◉大内人形　年産額　一千圓

大正四年から始めて本縣工業試驗場に於て山口町の土産品として試作奬勵の結果、世人に其の雅致を認められ、九州、山陽、山陰各地に仕向らるゝに至つた。

生産者	吉敷郡山口町	保証責任信用販賣購買利用組合 山口縣工業試驗場傳習修了生工作所

◉杉割箸　年産額　七千七百圓

從來主として吉敷郡山口町附近で行はれしが、縣下山間部には杉林の間伐木多く、之れが利用方法は當業者間にも相當研究せられ、大正十二年頃から縣に於ては杉割箸の實演指導を行ひ、並に之れが經營上に於ても相當奬勵を加へし結果、現今では佐波郡山間部にも産出を見るに至つた。而して其製品の販路は縣内及隣縣が主である。

生産者	吉敷郡山口町（山田號大和箸）	山田慶助
	佐波郡和田村（長壽箸）	重原朝彦

◉竹箸　年産額　四十七萬七千五百把　四萬七千圓

本業は明治三十五六年頃厚狹郡吉田村を中心に創始せられた。爾來販路の擴張に腐心

し、大正の時代に入り其の生産額約五六千圓を算するに至つた。其後奬勵の結果漸次各地に勃興し、現今厚狹、大津、佐波、都濃の各郡が主産地である。製品の販路は縣内、廣島、北九州、滿鮮地方である。

生産者　都濃郡富岡村　富岡竹細工株式會社
　　佐波郡串村　竹細工改良組合　大野オ一
　　厚狹郡吉田村　增田悟一
　　阿武郡萩町　萩町立工業傳習所

◉竹製品（笊、籠類）年産額　三十萬圓

本縣の竹細工業は古から俗稱籠屋と稱する從業者以外に、物好的に或は自家日用の間に合ひ品を製造するに止まりしが、由來竹材の產額豐富で之が利用に依る加工的生產の途を講ずるのは極めて有利の事に屬するので、明治四十年頃から多少斯業に志すものあるに至つた。大正九年縣立工業試驗場を設置するや、同場竹製品の試驗研究をなすと同時に、竹工傳習生を募集し、技術の傳習を授くるもの丶外、技術職員の出張指導を行ふ等當業者の造成を圖り、一面大正十一年度から縣は技術の堪能なる當業者を招聘して傳習的實演指導を行ひ、從業者の增加を圖り、其他事業組織を共同に導く等、漸次發達の機運を促進するの狀況であつて、本事業は今や縣下各郡に於て研究せられて居る。昨今主產地は都濃、吉敷、阿武、熊毛の各郡で、其製品の主なるものは籠類（着色ものを含む）笊類等で、其販路は縣内及廣島、東京、大阪、北九州朝鮮等である。

生產者　吉敷郡山口町　保証責任信用販賣購買利用組合
　　都濃郡富岡村　山口縣工業試驗場傳習修了生工作所　富岡竹細工株式會社
　　美禰郡西厚保村（古竹堂）　窪巖
　　阿武郡萩町　萩町立工業傳習所

◉木炭　年產額　一千一百萬貫　四百萬圓

產地は縣全体に渉り、大正八年十二月山口縣一圓を區域として本組合を創立した。爾來製炭技能の指導製品の改善統一、特に燻炭の絕滅に量目の正確、撰別の嚴密、品質の適良等に努力し傍ら販路の擴張に努めて居る。元來防長木炭の俵裝は丸俵であるが、關東方面の嗜好に應じ、角俵の生產をも爲さしめて居る。近時頓に其の聲價を昂め需要の擴張に伴ひ、益々生產增加の傾向である。神戸、大阪、奈良、京都地方は勿論、關東方面にも盛んに移出するに至つた。

生產者　吉敷郡山口町　防長木炭同業組合

◉漉布海苔　年產額　一萬三千貫　七萬圓

明治五年頃から豐浦郡安岡町に於て創始せられ、爾後需要激增と共に大に改良を加へ、

其後種々研究の結果、全國で有數の布海苔を製産するに至つた。其製品は縣内は勿論擴く京阪、東京、滿鮮地方にも仕向けらるゝに至つた。

生　産　者　豐浦郡安岡町　桶尾平三郎

◉製　紙　年産額　三百六十萬圓

縣下の製紙は其起源遠く藩政時代から農家の副業として經營せしもので、各戸皆之れに從事し、當時は米鹽と同じく貢祖の一に加へられ、品質共に善美を盡せしが、廢藩後製品は漸く粗製濫造に流れ、遂年販路を失ひ事業中止又は廢業するものが多くなつた。茲に於て明治十二年官民合同製紙會社を開き、種々奬勵策を講じ、地方的紙業組合、改良組合等を組織し事業の改良進展を策せるものがあり、其結果漸次復興し、歐州戰亂當時は年産額二百八十万圓を算するに至つた。機械製紙の工業的生産約二百六十万圓を算して居る。元來副業的手漉製紙は機械で製造し得ざる特殊なものを製造する事が出來て、之等需要は逐年增加の狀勢である。而して縣は明治四十二年防長紙同業組合の設立に依り、製紙業の改良發達に資する統一機關の活動と相俟つて、斯業聲價の發揚に努めて居る。主産地は佐波、都濃、玖珂、阿武、美禰の各郡の山間部である。製品は阪神、關西、九州方面に仕向けられて居る。

生　産　者　吉敷郡山口町　防長紙同業組合

佐波郡島地村　佐古兼吉
美禰郡伊佐町　篠田榮一

◉唐草織物　年産額　百三十八萬五千枚　二十五萬圓

唐草織一名經木織は、其の創始年代未だ淺く、縣は大正四年頃から相當之れが奬勵を爲し、工賃的婦女子の副業として、之れが勃興に力めて居る。現今では大島、玖珂、熊毛の各郡を主とし、吉敷郡の一部に産出するの狀況で、其の製品は輸出品として總て神戸市に仕向られて居る。

生　産　者　大島郡安下庄町　濱西伊八
同　玖珂郡柳井町　阿部喜三郎
同　同　河本勝之助
同　同　村岡兼吉
熊毛郡曾根村　藤本八百藏
吉敷郡井關村　沖野鶴松
同　尾上倉松
同　工藤勘治

◉籐　表　年産額　八千五百足　五千圓

大正四年度來、大正九年頃迄縣に於て適所に傳習指導等奬勵を加へし結果、當時相當從業者あるに至りしも、事業組織の欠陷に依り一時不振の狀態に陷つた。併し近時事業主に依る工賃副業として、稍々事業勃興の機運を示し、從來僅かに產出する山口町の外宇部市、下の關市等にも產出するの狀勢に向つた。其製品は縣內及九州方面にも仕向らるゝに至つた。

生產者　吉敷郡山口町　小野フシ
　　宇部市　土屋秀吉

◉一閑張　年產額　三千二百圓

一閑張は大正十四年縣立工業試驗場で試作の結果、其の成績が良好であつたので、吉敷郡山口町、阿武郡萩町に普及し、遂次發達の趨勢である。製品は主に縣內及關西、關東方面に仕向られて居る。

生產者　吉敷郡山口町　保証責任信用販賣購買利用組合工作所
　　阿武郡萩町　萩町立工業傳習所

◉莫大小製品　年產額　七萬六千七百圓

陸軍用手套及靴下は熊毛郡に產し、地方靴下は同郡及下ノ關市、佐波郡が主產地である。就中熊毛郡は周防村を中心に主に同村產業組合か組合員中の事業主數人に對し、原料の委托購入製品の委托販賣を行ひ、同村の子女の工賃的副業に依るものである。而して縣下の斯業は其の起源は不詳なるも、明治三十八九年頃から行はれしものゝ如く、以來財界の浮沈に伴ひ、事業は幾多の消長を經て現今に至つた。其製品は陸軍用は全部陸軍被服廠へ、其他は縣內、阪神地方に仕向られて居る。

生產者　熊毛郡周防村　有限責任周防信用販賣購買利用組合

◉手提袋　年產額　百五十個　三百八十圓

本業は家庭副業奬勵として大正十年東京家庭製作品奬勵會から技術者を招聘し、縣下の適當な場所四ヶ處を撰び、袋物用、西洋刺繍の製作に關し、傳習的實演指導を行ひしに始まつた。以來自家用の程度に之を行ひしも當業者の自覺の不足と共に、事業組織の不熟練なる爲め未だ家庭副業として販出する機運には至らないのである。

生產者　豐浦郡川中村　川崎タケノ

製作種目

諸官衙學校用品
和洋家具一式
一般漆器
竹細工一式
室内裝飾
其他各種製作

健實……縣立工業試驗場の指導のもとに製作しますから。
安價……地方發展策としての獻身的事業ですから。
親切……縣立工業試驗場傳習修了生の團體で一般製作者と其趣を異にしますから。

保證責任信販購利組合
山口縣工業試驗場傳習修了生工作所
事務所　山口縣工業試驗場内

德島縣

◉莚叺　年產額　三十萬圓

縣下水稻作地に於ける莚叺の生產は古より實行されしが、人造肥料の增加と塩叺の需要增加によつて漸次生產を增し、大正五六年頃より急に副業生產として沒頭するに至つた。就中那賀郡、板野郡の如きは同業組合組織成り、今では全縣下に相當生產するに至つた。縣內人造肥料工場、鑛石會社、鹽業者は勿論內地鹽業者に汎く販路を有するに至つた。農家唯一の副業として堅實に發達されてゐる。

生產者　那賀郡　　那賀郡莚叺業組合

◉番茶　年產額　九萬三千圓

從來阿波番茶殊に日野谷產の「朴野茶」と稱し、市場に於ての名聲實力共に高く、創始は往昔で詳ならずも、近來各郡に亘り其の生產を見るに至つた。生產物の改良生產能力の發達と共に、特に茶園の改良に努め、阿波獨特の香味を有する生產物を得るに至り、近年縣農會は番茶の共同販賣斡旋出荷組合の設立せられ、益農家副業として有利に計劃されて居る。俵裝は從來藁にて風袋一貫五百匁乃至一貫八百匁のものを造り、中正味二十五斤（一斤二百五十匁）入を一俵とし二俵を以て一石と稱し取引されてゐる。

生　産　者　那賀郡日野谷村大字朴野　西田　騰平

◉漉海蘿　年産額　三萬一千圓

主として那賀郡、勝浦郡の海岸に海蘿の附着多き故、從來漉海蘿として產出しつゝありしが明治初年頃より漸次改良を加ふるに至り、大正二三年頃よりは特に品質の向上と產額も增加し、從つて販路も擴張し、近時長野縣へも相當に移出をなすに至つた。

生　産　者　那賀郡椿村大字椿　宮崎龍藏

◉麻裏表　年産額　五萬圓

麻裏表は明治二十年頃より一部に於て製造せしも、順次各郡に普及した。草履造りの傍ら麻裏表を產出するに至つた。順次販路も開け縣內の消費は勿論大阪地方へも移出するに至つた。

生　産　者　名西郡高川原村大字高川原　西村久一

◉行李　年産額　二萬一千圓

明治四十年頃麻植郡山分に杞柳の植栽者ありしも、其品種不良成績擧らず、後大正元年より名西產にて植栽者點々現はれ、播州より種苗を購入排水路洲に栽植せしが、其成績良好で順次普及し、名西郡板野、麻植、那賀等にて一毛田地又は濕地に栽培するに至り、大正五年頃より之れが加工の爲め、特に名西郡農會は數度の講習會を開催し、其生產も增加し、德島市名西郡勝浦、麻植、海部の各郡に於て加工生產を爲すに至つた。益々發達の見込で縣內の需要は勿論大阪に移出されてゐる。

生　産　者　名西郡高川原村

◉眞綿　年産額　二萬六千圓

明治四十三年頃より養蠶の增加と共に、生產を增加するに至り傳習會を開催し、技術の向上を計りしも尙自家用を主とし一部を德島市に販賣してゐる。主として板野郡、麻植郡、阿波郡、名西郡、美馬郡が主產地である。

生　産　者　麻植郡鴨島町　阿野圭資
同　同　牛島村　阿野モトエ
同　同　藤江重明
同　井上忠五郎

◉煮乾鰮　年產額　三十萬圓

板野、名東、勝浦、那賀、海部の各郡に於て往古より製造してゐる。大正十年頃各地共海產物同業組合を創立し、生產の改良販路の開拓に努めし結果。縣內は勿論阪神とも取引されてゐる。

生　産　者　那賀郡坂野村　鳴瀧重吉

◉荷鑵詰　年產額　七萬圓

本縣荷栽培は近年長足の進歩をなし、產額增加と共に大正七年頃より鑵詰製造に志すものありて、當局も大に奬勵し現在那賀郡福井村最も盛である。遂に加工組合の設立を見るに至つた。堅實に發達してゐる、縣內消費は勿論阪神に販路を有するに至つた。

生　產　者　那賀郡福井村　有限責任福井筒利用販賣組合

◉干　瓢　年產額　三千圓

創業は大正十三年で、名東郡新居村大字名田が生產地である。當初試作の結果好成績を得、順次反別擴がり生產者の增加と共に改良を加えしと、地味の好適品質良好で、十四年より大阪市場に試賣せしに非常の聲價を博して居る。

生　產　者　名東郡新居村字新居　藤井嘉藏

◉乾　鰕　年產額　十萬六千圓

縣下名東、勝浦、那賀、海部の四郡に往時より產出せしが、近時產額を增加すると共に阪神に販路開けて盛に移出されてゐる。

生　產　者　名東郡齊津村津田浦　德元光二郎

◉鳥　籠　年產額　五千圓

名東郡が生產地で、明治四十年以來從業愛禽家に歡迎され製作しつつあるも、金屬籠の流行に伴ひ、需要特に增加せざるも、風流優雅を尊ぶ愛禽家の需用は又減じないのである。主として縣內消費に充てられてゐる。

生　產　者　名東郡加茂村矢三　板東藤太

◉素　麵　年產額　二十八萬六千圓

縣下德島市、名東、名西、板野、麻植、阿波、美馬、三好の一市七郡が主產地であるが、板野郡は生產多く、明治初年頃より創業せしもの多く、爾來五十餘年其間品質の向上改良を計り、縣內は勿論、秋田縣、仙臺市、名古屋市、大阪市、東京市の各市場及朝鮮、大連に移出の路を開き前途有望である。

生　產　者　板野郡撫養町齊田　秋田賀次郎
同　町木津　山本重三郎

◉本場鳴門若布（又は和布）

弘化二年に製造法を發明し今日に至つた。明治二十二年春鳴門水產會々長村幸八氏が初めて東京に販路を開き大に好評を博した。現今は販路を東京は元より横濱、大阪、中國、四國、九州、朝鮮、大連に有して居る。主產地は板野郡なるが、那賀郡にも產出されて居る。

生　產　者　板野郡里浦村　鳴門水產株式會社

香川縣

◉麥稈眞田　年產額　百四十一萬三千二十五圓

縣下の麥稈眞田の起源は、明治十五年大阪の人原田某、小豆郡草壁村に來り若干の麥稈を購入せるに創まる。其當時は單に自然採收に因る原料の賣買に止まり、未だ加工製產するものもなかりしが、品質優秀なれば購客の需要旺盛となり、價格漸騰するに及び、追年農家副業として加工製造に從事するもの漸く多く、明治三十一年には製造戸數一千戸に達した。三十二年には粗製濫造の弊を防ぐため、二市七郡を區域とせる香川縣麥稈眞田同業組合の設立を見た。爾來技術の練習（檢査員練習所を設け檢査員を養成す）普及宣傳製品の檢査、販路の擴張に力を用ひ、一面原料麥作付反別の增加を圖り、小學校手工科に麥稈眞田を加ふることを奬勵し、各郡に工業技手を置かしめ或は又品評會競技會等を開催し、製品の改善進步を計る等、指導奬勵に努めし結果、勸業計畫樹立後僅か三年にして產額二百三十餘萬圓に上るの盛況を呈したが、大正三年歐洲戰亂の影響を受け一時產額を激減せしも、其後大正六年頃より漸次恢復し、大正九年には五百四十五萬六十餘圓の產額を見るに至つた。而して近時財界の不況の爲め商況不振に陷り、大正十年には百二十餘萬圓に激減せしも近年恢復し、大正十三年には百二十萬圓に上つた。

生產者

◉叺　年產額　二百六萬二百十四

縣下の叺は麥稈眞田と共に、家庭工業として農家の副業に生產せらる。然れども其の發達は輓近十數年の事に屬し、起りは明治三十八年日露戰役當時出征軍人遺家族救護の目的を以て帝國軍人後援會の助力に依り、之れが製造普及を奬勵せしに創まる。而して平和克復と共に一時非況に陷りしが、偶々政府專賣鹽の包裝を改正し、從來の俵を叺に變更せしにより亦需要の道開け、相當の價格を唱へしかば生產者漸次增加せしかば當業者は自營上共同團體行爲の必要を生じ、明治四十五年三豐、綾歌の兩郡に同業組合を設立し、大正四年には仲多度郡に同組合の設立を見た、以來何れも粗製濫造を戒め、製品の檢査改善販路の擴張に努め、鹽包裝のみならず肥料工業用製品包裝の叺の宣傳奬勵をなせしにより、遂に先進地たる阪神、岡山の製品移入を壓倒し、反つて此等の地方に移出するの盛況を呈した。大正十二年には其產額二百六萬百十圓を算し、縣下の家內工業中主要物產の首位を占むるに至つた。主產地を三豐郡、仲多度郡、綾歌郡の三郡とし、大川郡之れに次ぐ、製造戸數二萬四千八百二十一戸、從業人員四萬二千三百三十七人である。

生　産　者　三豐郡
仲多度郡
綾歌郡川西村
三豐郡叺同業組合
仲多度郡叺同業組合
馬　場　道　德

◉麥稈張時細工　年産額　二千四百五十圓

大正十三年十一月に仲多度郡琴平町に創まつた。以來同地を中心に製作せられて居る。目下製品は糸卷を主とし小箱等にして琴平土産品として賣行良好なり、其れが爲め生産者も漸次增加の傾向にして、一ヶ月糸卷三千枚小箱五百個を製産するに至つた。

生　産　者　仲多度郡琴平町　福　田　秀　太

◉麥稈念編帽子　年産額　十五萬圓

大正十三年十月神戸市(直輸商)信友組直營の下に大川郡津田町に出張所を設置せしを嚆矢とし。爾來縣下にては生産增加に努力し、津田町を中心に附近五六ヶ町村に普及した。翌十四年三月高松市、香川郡、三豐郡等に神戸市場に直送すべき製造問屋業開始するもの各一名、創業日尙淺きにも拘らず長足の進歩を來し、現在是に從事するもの一千數百名を算し、漸次發達の緒に着いたものである。仕向地は北米合衆國にして將來は內地向として各都市に販路擴張を計畫して居る。

生　産　者　高松市　木　下　恒　入

三豐郡和田村　石　川　製　帽　所

◉彫拔細工品　年産額　四十萬九千七百三十二圓

彫拔品は木材を穿鑿し漆を塗布するもので、盆、膳椀、茶器、飯櫃、卷煙草入、重箱、硯箱等を生産す。維新前後高松藩士後藤太平娛樂的に製作し、知人に頒ちしが製作堅牢實用に適し、鬆漆亦風韻に富めるを以て風流人士の愛翫する所となり、遂に本業として主力を注ぐに至つた。木地彫が主として農村の副業となりしも、近時仕上品をも産出し、今や縣下の特有物産として名聲を博するに至つた。初めは高松市を中心に製作せしが、現今は木田郡、仲多度郡、三豐郡等に普及した。製造戸數九十五戸副業的に從事せる職工五百六十七名である。仕向地は東京、京都、大阪等を主とし、殆んど全國的に販出され、近時海外にも及ぶに至つた。

生　産　者　高松市　讃　岐　工　藝　社
同　小　松　和　太　郎
同　西　村　瀧　次　郎
同　合資會社　文　新　堂
同　松　田　一　和　堂

◉竹細工品　年産額　十四萬二千百四十二圓

縣下の細工品は主として籠、笊及傘骨、提燈、簾等で、籠類は内地向と海外輸出向とある。内地向竹製品は藩政時代に創まり、輸出向竹製品は殆んど大正年間の發達に係る、大正六年高松市に竹細工傳習所を設け、專ら斯業の啓發を計りしも、時局の影響で好結果は得ざりしも其後製作品の改良と一般販路開拓の結果、漸次好況を呈するに至つた。彼の貿易品たる玉藻籠、盛物籠等は共に雅致に富む。而して丸龜市の竹製品は小鳥籠を始め、玩具籠の類は金比羅參詣の手土産として舊くより製せらる。高松、丸龜を中心に全縣下に製產されて居る。製造戸數二百六十三戸、從業員五百五十八人である。内地向として阪神、東京其他重要都市とし、海外へは主として米國、英國、佛國、南洋の各地へ輸出せられて居る。

生產者	丸龜市	鹽田喜内
同	同	西山兼吉
同	同	平尾カク
同	高松市	蓮井霜一
同	同	松本彌三郎

◉日傘　年產額　八十八萬五千八百八十圓

縣下の傘は維新前迄は之が需要範圍極めて狹少にて、專業となすもの殆んどなく、藩士が事務の餘暇手造りせしに過ぎなかつた。維新後一般の使用する處となり、自から專業的製造家生じ、之に農家及商家の子弟が副業的に職工として從事するに至つた。就中日傘は紙價工賃低廉、雅致に富めるにより一時甚だ聲價を高めしも其需要衰えしかば鋭意之れが改善に努めし結果。洋傘の代りとし使用するもの激增し、内地は勿論米國、南洋、支那地方へ輸出するに至つた。其意匠色付等益々發達し、最近薄霜染俗に金紗染と稱するものを案出され、海外に於て歡迎せられて居る。米國にては海水浴等に使用するもの多しと云ふ。故に累年其需要增加し、製造戸數二百八戸職工四百七十三人を算して居る。

生產者	高松市西通町	久住茂太郎
同	西新町	瀨尾善太郎
同	田町	木内計太
同	天神前	讃岐傘同業組合

◉和紙　年產額　百八十六萬五千八百八十三圓

縣下の製紙は凡そ百餘年前、香川郡鶯田村に伊豫三島の者來り、鄕東の清流を利して奉書紙を製せしに創り。後舊藩主松平侯國益と認め紙會所を設けて、積極的取締を行ふ傍ら原料楮皮栽培を奬勵した。爾來製法製品幾多の變遷消長を經て現今に至つた。

其主産地は高松市にして香川郡鷲田村にも及ぶ、製品の種類は半紙及中拔紙と稱する白漉雜用紙を主とし、他に少量の美濃紙と塵紙を製産す。明治三十二年讃岐製紙同業組合を設立し、製品の改善研究、販路の擴張、機械器具の改良應用に努め、更に大正四年同業組合檢査を勵行するに及び、益々堅實なる發達を遂くるに至つた。現在の販出地は大阪、神戸を主とすれども、近時東京其他の近縣にも販出されるに至つた。將來これが益々完全なる發達を計るため、機械の利用を奬勵し、迂遠なる手作業に代へ、勞力に關する生産費の節約を計り、原料の共同購入、製品の共同販賣等共同的處理を促さんとして居る。現在の從事人員は一、〇六五人である。

生産者　高松市　有限責任讃岐製糸同業者信用販賣購買組合

◉花莚　年産額　三十五萬八千九百圓

縣下の花莚製造業は大正初年萠芽し、農家の工賃副業として大川郡内に大發展を來し、大正九年來財界異常の變況に際會し、自營上各工場共從來の組織を變更し合併整理を行つた。現今に至つては市況稍良好で相當盛況を呈するに至つた。主なる販出地は阪神、東京其他各地にして、製造戸數三百八十三戸、職工千二百六十九人である。

生産者　大川郡向島本町　淺越商店讃岐支店

◉麵類　年産額　百三十一萬千九百五十一圓

縣下の素麵は慶長三年小豆郡池田村の某伊勢參宮の途上、偶々大和三輪に於て農家が其閑散季を利用して、耕牛によりて小麥粉を製し、素麵を製造するを目擊して、其方法簡易にして農家の副業に恰好の事業なるを知り、之れが練習を受け歸島するや、直ちに生産に從事した。爾來近鄕相習ひて生産するもの續出し、小豆郡を中心として各郡市に及びて遂に今日の盛況を見るに至つた。現今製造戸數は五百七十八戸で、職工一千九百一人である。

生産者　小豆郡池田村　八代田勝次郎

◉團扇及團扇骨　年産額　團扇二十三萬五千八百十二圓　團扇骨八十八萬五千八百圓

縣下の團扇は丸龜市を中心に、藩政の頃藩中内職として所謂金刀比羅參詣の土産品たる澁團扇を製造せしに始まり、明治七八年の頃大阪商人と協力し、商店廣告團扇の製造を畫するや、漸次其販路開け産額大に激增し、明治四十三年團扇同業組合を設立し、製品改良檢査を行ひ其眞價を高むるに努めた。大正五年共同販賣斡旋部を設け、品質品價の統一を圖り、更に大正八年組織を改め、有限責任販賣組合丸龜團扇共同販賣所となし以て現今に至つた。比較的工賃安く從て製品の安價なるを誇りとして居る。近時貿易品として輸出せらるゝに至つた。現在團扇製造戸數五十一戸で、職工五百五十九人、團扇骨製造者丸龜市及附近五ヶ村に及び二千餘人の多數を算するに至つた。

生産者　丸龜市　丸龜團扇株式會社
同　仲多度郡多度津町　有限責任丸龜團扇共同販賣所　多度津團扇株式會社
同　志滿多商會

◉莫大小手袋　年産額　八萬五千六百十一圓

縣下の莫大小手袋は、大正三年以來時局の影響を受け財界の好況時に勃興せし新事業である。製品は主として海外に輸出して居る。製品は至極低廉なると、技巧の長じたるとは經營上諸般の點に優越し益々盛況を呈するに至つた。大正六年同業組合を設立し、縣又年々貳百圓を補助し、製品の統一改善、販路の擴張等を奬勵したので僅かに兩三年間に其効顯はれ、農家の子弟が副業的に從事するもの七百六十人を算し。大正七八年頃は最も隆盛を極めしも輓近經濟界の變動を受け一時生産減退せしも、現在は大阪より原料の供給を受け只手袋の加工のみなるも、販路漸次擴張し好況を呈するに至り、全國並に海外に販出されて居る。

生産者　大川郡白鳥本町　神崎マサ
同　山本彌平
同　成瀬又吉

◉小禽　年産額　十五萬六千圓

天保元年頃仲多度郡多度町を中心に十姉妹、文鳥、かなりや等の飼育を初めし當時は一部人士の娯樂的飼育に止つてゐたが、明治十年頃初めて海外に輸出し、相當副業として有利なるを認め、同郡四個村、郡家村、南村、瀧川村其他數ヶ村に普及し、一部高松地方にも飼育されるに至り、娯樂を兼ねたる副業として相當有望となりたる時、明治三十七八年日露戰爭の影響を受け不況の結果、一時飼育羽數の減少せしも、明治四十四五年頃より漸次好況に向ひ飼育羽數も增加し、最近三四年間は意外の盛況にて著しく增加し、副業として有望と認めらるゝに至つた。現在は是れ以外に脊黃インゴ、古錦鳥、尾長キンセイ、七寶、日丸インコ等多數飼育せられて居る。元來本縣は氣候温暖の結果、孵化繁殖の成績良く從て優良なるもの生るゝを以て各地より多數の需用ありて爲めに供給不足の狀態である。而して內地及び海外に多數販出され、現在の飼育戸數は縣下を通じて二千五百戸の多きに達して居る。

生産者　仲多度郡　仲度郡四ヶ村

◉竹細工品　年産額　三十一萬圓

縣下の竹細工工業は古來より行はるるも、高級美術品、即ち黑物細工の製作を見たるは明治二十五六年の頃にして、其後年と共に發達し、海外貿易品として神戸より輸出せられた。近くは內地向製品に變化の道程を辿り、各市場に於て松山籠として歡迎せられて居る。主なるものは文人花生類、盛物籠類、衣裳入、文庫類である。主產地は松山市三ッヶ濱道後附近である。取扱商店は松山市佐伯商店、白石商店、溫泉郡三ヶ濱今井商店等である。取引希望者は縣勸業課副業係、又は商品陳列所に照會せば斡旋されるとの事である。

◉紙製品　年產額　百餘萬圓

本縣には楮、三椏天然に產し、原料に乏しからず、舊藩時代より製紙業を奬勵し、從つて紙製品の業盛んなり、市街地又は農村の副業として行はるゝものは水引、狀袋、卷紙類にて內地各地に取引されて居る。主產地は宇摩郡三島地方である。取扱商店は宇摩農會、又は縣勸業課副業係、商品陳列所に照會せば紹介斡旋されるとの事である。

◉伊豫絣　年產額　八百餘萬圓

縣下の伊豫絣は創始最も古く、數百年の歷史を有するも、特に其發達を見たるは明治二十七年以降である。市街地又は農業として行はれ、全國各地に取引せられ、織地の堅牢と價格の低廉とを以て誇りとして居る。主產地は松山市、溫泉郡一圓、伊豫郡一圓、今治市、北宇和郡吉田地方である。取引希望者は縣勸業課副業係、又は商品陳列所に照會せば紹介斡旋されるとの事である。

◉伊豫密柑　年產額　三百餘萬圓

縣下は氣候溫暖にして、能く柑橘の栽培に適するのである。殊に西宇和郡八幡濱町、伊方村地方沿岸一部、北宇和郡吉田町地方沿岸部一帶、南宇和郡沿海部一帶は之れが主產地にして、主として溫洲、ネーフル、夏橙を產し、共に品質佳良なれば、伊豫密柑として市場に名聲を博して居る。主なる販路は大阪、神戸、中國各地、門司、下ノ關、別府地方である。近くは關東各地、朝鮮、滿洲方面へ移出せられて居る。取引商店は伊藤密柑同業組合である。取引希望者は組合又は縣農會に照會せば、紹介斡旋さるゝとのことである。

高知縣

◉紙　年產額　九百十萬六千百九十九圓

縣下の製紙は醍醐帝の朝延喜式献上品となりしと云ふ。古くから名聲を博せしを知らる。目下全縣下に亘つて行なはるゝが、就中土佐、吾川、高岡の三郡が盛んである。其の製品は内國は勿論、海外迄も販路を有し取引せられて居る。

生產者	
半切紙、インキ止紙、駿判紙　長岡郡久禮田村	久禮田製紙販賣組合
柳小判紙、柳書院紙　高岡郡川内村	信用販賣購買組合
典具帖紙　吾川郡神谷村	土佐典具帖紙製造組合
柳小判紙、柳書院紙、西内紙　同	製紙販賣購買利用組合
仙貨紙、傘紙　高知市通町	畠中半次

◉製紙原料（楮、三椏）年產額　百六十七萬五千九十五圓

製紙原料中楮の栽培起原は明ではないが、三椏は明治十七八年頃靜岡方面より移入し栽培せしが嚆矢である。各郡の山間部に產出す。縣下の氣候風土に良く適合し、今日の隆盛を見るに至つた。

生產者		
蒲鉾　高知市通町	同　旭町二丁目	畠中半次
		佐々木寅太郎

◉蒲鉾　年產額　五十萬圓

藩政時代より製造したものであるが、盛んとなつたのは最近の事である。目下阪神其他東京方面にも移出されて居る。品質の良好食味佳良なる點に於て歡迎せられて居る。

生產者		
蒲鉾	高知市九反田七七	柳本卯三次
消蒲鉾	高岡郡須崎町	岡村寅松
同	高知市本町筋一丁目	正木茂彌

◉兩傘　年產額　三十萬圓

起原詳かならず、縣下各地に行なはるゝも、香美郡山田町は主產地である。堅牢で品質良好なるを以て名聲を博して居る。

生產者	
安藝郡奈半利町	弘末八百馬
高岡郡戸波村	北岡直治

◉綠茶　年產額　二十四萬圓

藩末の頃土佐郡下知村の人小島源七なるもの製造を試みしが嚆矢である。漸次隆盛と

なり今日に及んだ。主産地は高岡、吾川、安藝の三郡の山間部である。主として靜岡、神戸方面に移出し販賣されて居る。

生　産　者　安藝郡土居村　五百藏峯吉
同　畑山村　岡　眞七
同　東川村　大井武美
同　安藝町　西内寛容
同　清藤延枝
同　清藤暢夫

⊙檜　笠　年産額　二十萬圓

起原明かではないが、明治二十年頃は既に相當發達した。主として長岡郡本山町附近一帶に行なはる。縣外各地に販賣し取引せられて居る。

生　産　者　長岡郡本山町　岩本春茂

⊙桂　乾　年産額　二十萬圓

二三年前より製造を始められ、品質良好なるを以て漸次名聲を博するに至つた。主として高知市に於て製造せられて居る。

生　産　者　高知市桝形町

德屋食料品店加工部
山德　吉

⊙麻裏表　年産額　十萬圓

起原は分明しないが、明治二十五年頃より縣外に於て賞讃せられ、歡迎を受け一般の需要に應じて居る。吾川郡長濱村が主産地である。

生　産　者　吾川郡長濱村　光内清九郎

⊙上簇器　年産額　十萬圓

縣下には蜂巣と稱する上簇器があつて、一般に使用せられ好評を博し、急速の普及をなして居る。香美郡片地村、佐古村方面に於て製造せられて居る。

生　産　者　香美郡片地村神母ノ木　岡原式上簇器製造所

⊙木　櫛　年産額　十萬圓

香美郡夜須村に於て藩政時代より始められたもので、明治三十四五年頃より漸次發達し今日及び、製品は内國は勿論支那、朝鮮等にも輸出するに至つた。

生　産　者　香美郡夜須村　城武彌七

⊙釣　鈎　年産額　十萬圓

永錄元年の頃より製造せられたもので、目下主として高知市内に行なはれ、製品は全國に名聲あり漸次發達するに至つた。

生　産　者　高岡郡宇佐町三八〇　川口彌吉

◉封　筒　年産額　六萬二千圓

製造の起原は分明しないが、紙業の隆盛なるに伴ひ發達し、各種の改善と共に益々發達せんとする狀勢である。主として高知市内にて行なはれて居る。

生　産　者　高知市蓮池町　門田丑太郎

◉飯　室　年産額　五萬圓

製造の起原は明かでないが、高知市附近に於て製作せられ。製品は縣下並に大阪方面に販賣せられて居る。

生　産　者　土佐郡鴨田村　宮地定志

同　宮地作馬

◉杞柳細工品　年産額　四萬圓

明治十二年から幡多郡中筋村方面の低濕地を中心に杞柳を栽培をされた。其後但馬方面の人により傳習を受け製作に着手したものである。原料杞柳の品質が良好なるを以て從て良品を生産されて居る。

生　産　者　幡多郡中村町　友永安太郎

◉雪　駄（一名萬年草履）　年産額　約一萬圓

本品は昔から製造せられ一名萬年草履と稱し、堅牢無比なるを以て名をなしたのである。長岡郡長岡村が主産地である。

生　産　者　長岡郡長岡村　池田榮喜

◉蜂　蜜　年産額　約一萬圓

藩政の頃野中兼山翁紀州より蜜蜂を移入し、山野に放ちて以來始まつたものであると云ふ。爾來外國種等移入し、改善發達し現在は吾川郡南部に多く飼養して居る。

生　産　者　高岡郡日下村　戸梶稻雄

吾川郡西分村　山崎益樹

◉アート帶　年産額　五千圓

二三年前より農村に於て自家用として生産せらるるに至つたが、十四年に至つて商品として一般に取引せらるるに至つた。縣外にも販路を開拓して居る。高知市附近で多く産出されて居る。

生　産　者　高知市北新町　アート帶織物製造組合

◉羊齒細工品　年産額　約五千圓

十數年前より僅に行なはれて居たが、最近に至り漸次産額も增加するに至つた。高知市に於て産出されて居る。

生　産　者　高知市南奉公町　下元繁則

◉竹細工品

普通一般の竹細工品は古くから行なはれしが、此の種藝術品は長野進造氏が大正十三年から始めしもので、漸次普及の兆候を有し將來有望のものとなつた。

生　産　者　高知市農人町　長　野　進　造

◉松茸味噌漬

近年製造を開始したものであるが、天然生の原料で品質良好且つ豐富なるを以て將來發展の望がある。香美郡片地村、佐古村方面に多く產して居る。

生　産　者　香美郡片地村　鍵　山　武　茂

◉果物菓子　年產額　一萬圓

果物、蜂蜜等を原料とする菓子の製造は十年前から始めたものである。近來高知市及長岡郡三里村で相當生產するに至つて、益々發展の氣運である。

生　産　者　長岡郡三里村吹井　戸　梶　清

福　岡　縣

◉叺　年產額　三萬七千圓

農家の副業中最適切なるもので、郡內農家の約七割は農閑期を利用して之れが製作に從事し、年々增加の傾向がある。而して製品は九州各地の工業地へ販出して居る。

生　産　者　山門郡西宮永村　有限責任西宮永村信用購買販賣利用組合

◉和　傘　年產額　五萬七千圓

從來郡內を中心として大正十一年から開始し、以來種々奬勵の結果目下九州一圓に及び、最近中國及山陰等は市場にも販出せらるゝに至つた。

生　産　者　山門郡大和村大字鷹一尾（福壽傘）　砥　上　壽　太　郎

◉甘木絞　年產額　七十萬圓

甘木絞は朝倉郡甘木町を始め、郡內夜須村、三輪村、馬田村、上秋月町、秋月町、安川村、立石村、福田村、蜷城村、金川村、三奈木村、大福村並三井郡の一部の農家婦女子の好副業に享保年間始めて絞として少數の生產を見たりしが、今日の盛況を呈するに至つた。其間勿論幾多の盛衰ありしも當業者の製造方法の改善、染料の研究等其効を奏し、遂に主要產物として各方面に其生產を認められ、現今にては九州は勿論京

阪、新嘉坡、滿鮮地方に擴張し甘木絞の名聲愈顯れ頗る好評を博するに至つた。其從業戸數は今日は實に五千餘戸、人員一萬二千餘人を算して居る。

生　産　者　朝倉郡甘木町大字甘木　甘木絞組合

◉繭製品（花莚、莫蓙其他）　花莚　年産額　百五十萬圓

安政の頃は僅に舊機を以て織成せる八十經の縞花莚等で、其織りは至つて單純であつた、是ら海外に輸出するに至りしは、同六年長崎港にて和蘭人及葡萄芽人に賣込んだのが嚆矢である。其後漸次織機を改良し、明治二十年頃には花莚の輸出漸く增加し、一面之が指導奬勵の結果其間幾多の變遷を經て今日の盛況を呈するに至つた。

◉莫　蓙

莫蓙は花莚と齊しく漸次改良發達し今日に及んだ。繭製品は同地方農家の好副業として年々其の從業者を增加し、而も種々織機の改良に伴ひ長足の進歩を爲した。近時では岡山、廣島等と並ひ稱せらるゝに至つた

生　産　者　三潴郡木佐木村　福岡縣花莚同業組合

◉久留米絣　年産額　九百萬圓

久留米絣は今より百餘年前の天明八年十二月二十九日御井郡道外町（現今久留米通外町）に呱々の聲を擧げたる井上傳女なる一婦女の手に依り發明せられ、其後犬塚太藏、牛島ノシ女に至り、大成し、牛島喜次郎、齋藤藤助、仲初太郎に依りて潤色を施されて今日の盛況を見るに至つたのである。然して筑後地方婦女子ある家で機杼の響を聞かざる所なき迄に至つた。其販路も漸次擴張し、東京、京都、大阪、名古屋を中心とし東は北海道、西は琉球、臺灣に至る迄殆ど至らざるなき盛況を見るのみならず、滿鮮地方は勿論、支那、布哇其他海外に輸出するものも尠からざるに至つた。

生　産　者　久留米市　赤松絣本村合資會社
同　國武特許絣合名會社
三潴郡西牟田村　津城合名會社

美術日用
竹細工品
製造卸業

本社の所在地は竹の名産地なり
本社の製品は農家の副業になり
山口縣都濃郡富岡村

富岡竹細工株式會社

本社の製品は價額低廉なり
本社の製品は技術巧にして堅固なり

佐賀縣

◉障子紙　年產額　一萬八千餘圓

縣下神埼、佐賀、小城、東、西松浦郡の諸村の山間部の副業として舊藩主の奬勵に始まり今日に至つた。賢實な發達を遂げ、九州各縣及關西方面に販路を有するに至つた。

生產者　佐賀郡松梅村　川浪梅次郎

◉毛筞　年產額　三萬五千餘圓

縣下佐賀、神埼郡平垣部の諸村に副業として經營せられ、中には小工場を設けて農家の婦女子は賃取副業として從事するものがある。近時隣縣は勿論關西方面にも販路を有するに至つた。

生產者　佐賀郡北川副村大尾　副產商會

◉叺　年產額　三十餘萬圓

縣內各郡に互つて生產はあるが、主產地としては神埼郡、杵島郡で、平坦部諸村の有力なる副業であつて、近時順調に進展し九州各縣は勿論滿鮮地方及臺灣にも販路を有するに至つた。

生產者　杵島郡橋下村　東島彌助

◉毛　蓑　年産額　二萬六千餘圓

縣下佐賀郡、神埼郡を主産地とし、數ヶ村に亙つて生産される。男女を問はず何れも副業的に經營して居て、主として福岡縣炭坑地方及熊本縣地方に販路を向けられて居る。

生　産　者　神埼郡西郷村　平　山　伊　太

◉菅　笠　年産額　六千圓

神埼郡蓮池村、佐賀郡の東川副村に生産せられ。相當古い歴史を有するのであるが分明しない。熊本縣及鹿兒島縣等に取引せられて居る。

生　産　者　佐賀郡東川副村　黒　田　米　吉

◉傘　紙　年産額　五萬八千圓

主産地は佐賀、神埼の二郡であるが、何れも山間諸村の副業として經營せられ堅實なる發達を遂げ、九州各縣及關西方面に販路を有するに至つた。

生　産　者　佐賀郡松梅村　小　林　藤　吉

◉唐津半紙　年産額　三十八餘萬圓

主産地は東松浦、西松浦・杵島郡であつて、何れも農家の副業として製紙に從事して居る。藩制時代の奬勵に始まり、相當古き歴史を有するが、星霜と共に幾多製法に改善を加へ今日に至つた。九州各縣は勿論關西地方及東京市に移出せれて居る。

生　産　者　佐賀縣

◉七島疊表　年産額　六萬圓

縣下三養基、神埼郡の南部即ち平垣部諸村に生産せられ、近年は平坦部の稻田に電氣灌漑普及し、餘剰勞力の利用を七島表の生産に奬勵せし結果、近年生産は增加し組合を設立した。隣縣及關西地方に販路を有するに至つた。

生　産　者　三養基郡南茂安村　佐賀縣製紙同業組合　岡　彌　太　郎

◉木蠟（晒蠟）　年産額　生蠟　七萬八千餘圓　晒蠟　十九萬一千餘圓

主産地は縣下三養基、神埼郡にして、遠く舊藩時代の奬勵に始まり、現在勞銀の騰貴と養蠶の好景氣とは櫨畑に影響し、漸時衰退の氣運にあるが、勿論何れも副業的に經營するに過ぎない。主に大阪に販路を有して居る。

生　産　者　肥前木蠟同業組合

◉佐賀錦

佐賀手織錦は今から約百二十年以前に佐賀の鹿兒島鍋島藩士並木多中氏の創始せられ其後專ら鍋島家で境外不出の秘法として久しく同藩に傳へられ、其當時から屢々宮中又は幕府へ献上せし美術手藝品である。最近故大隈侯等の推奬に依り東京は勿論各地の上流婦人社會に愛用され、今日では階級の上下を問はず一般に普及せられて居る。

生産者　佐賀市

◉製莚機　年産額　五百圦

機械が輕快で綾取の確實なることは他に追從を許さない處であつて、縣内の需要は勿論隣縣にも盛んに移出される。

生産者　杵島郡南有明村　大井壽一

◉製繩機　年産額　八百圦

宮崎式製繩機は幾他製繩機中最も古い獨創になり、表彰若くは功勞賞を授與せられたることも數回あり、機械は堅牢簡單、然かも輕快大、中、小の製繩自由なるが特長である。縣内の需要は勿論隣縣及滿鮮地方にも移出されて居る。

生産者　佐賀市唐人町　宮崎林三郎

◉三摺蝦　年産額　二千三百圓

永く貯藏に堪へ佳味、不變にして縣内及、佐世保、大牟田、東京市等に取引されて居る。

生産者　藤津郡多良村　吉田傳作

◉茶　年産額　二十五萬圓

嬉野茶は獨特の釜製で、何れも農家の副業として生産せられ、數回の煎茶に堪へ縣内は勿論隣縣、長崎縣其他の地方に販路を有して居る。

生産者　藤津郡西嬉野村　今村市松

長崎縣

◉櫻干（鱸、鯛）　年産額　五十萬圓

櫻干は近時擡頭せる水産調味加工品中、急速度を以て需要額の增大を來し、今や一般的嗜好食料品となつた。其風味絶佳益々世の賞讃を博して居る。其産額は全國第一位にして、大正十二年は十六萬二千貫、價額四十一萬八千餘圓に上り、同十三年は五十萬圓を突破した。然も櫻干が商品として市場に出でしは本縣産を以て嚆矢である。尙常に優良なる製品の生産をなすべく、堪えず改善を加へて居る。

生産者　西彼杵郡樺島村　小川太市
同　小川源五郎
同　深堀小市
同　平野福松
同　廣瀨好
同　瀨戸村　坂東寛市
同　富岡平一郎
同　八重島小太郎
對馬下縣郡嚴原町阿須

北松浦郡大島村神浦　平松彌五右衛門
同　金丸三郎
同　北原與右衛門
佐世保市三浦町五番地　松本廣太
同　迎長吉

◉布糊　年産額　二十五萬圓

布糊の原料たる海藿は、本邦では北海道に次ぐ、産地は眞海藿、袋海藿の二種最も多く、南松浦郡(五島)北松浦郡對馬が其の主産地である。殊に五島産眞海藿は品質優良なるを以て其の名聲を博して居る。

生産者　南松浦郡玉の浦村　久保七五三
同　樺島村　川野喜一郎
對馬下縣郡嚴原町　上野正太郎
同　上野知之助

◉鰯　年産額　三百十五萬圓

鰯は鰮製品に次ぐ重要水産加工品にして、主なる産地は對馬にして二番鰯主位を占め、夙に對州鰯として其の名世に顯れ、支那向輸出品である。一番鰯は五島に多く産し品質優良なるを以て喧傳せられて居る。

生産者　對馬下縣郡嚴原町阿須　八重島小太郎

◉白箸　年産額　四萬圓

白箸の主産地は北高來郡戸石村上戸石名とし、戸石箸は有名である。然も此の副業は唯鎌一本を使用するのみにて巧に且つ迅速に箸を製する技倆は實に驚嘆に値す、此の副業の創始は古き傳統的のものである。十四年度よりは組合を組織し、原料の共同購入並製品の共同販賣を行ひ、益々其の發達を計つてゐる。

生産者　北高來郡戸石村　戸石村製箸副業組合

◉杷柳細工　年産額　七萬圓

杷柳細工の生産地は南高來郡北有馬村で、其の販路は長崎、熊本、大牟田、鹿兒島等の九州の各郡市である、杷柳原料も實に同村産のものにして、其の栽培に周到の注意を拂ふと共に、技能の優秀を計り杷柳品の改善を期してゐる。

生産者　南高來郡北有馬村　菅藤保雄
同　川島千代藏
同　南有馬村　水島好治

◉椿油　年産額　五十四萬圓　生産石數　九百石

椿油は縣下到る處農漁村の副業として製造せらるゝと雖も、其の主産地は南松浦、壹岐、南北高來郡對馬島である。販賣方法は概ね仲買人の手を經てなさるゝが故に、本縣産として市場に現はれざるの憾あれば、今後生産方法を改良し、製品の優良を計ると共に、販賣組織に改善をなし、本縣産椿油として市場に現はれんとして居る。

生産者　南松浦郡福江町　岩本清吉
南高來郡島原町　森永小四郎
東彼杵郡川棚村　一之瀬直吉
北松浦郡佐々村　畑津重之助

◉島原織　年産額　五十五萬圓

島原織は南高來郡に於ける農漁民の副業製産品にして、其の特長とする所は染色に正藍を用ひ、太糸を使用して堅牢を目的とするから、外觀は整理工程を施さざれば見劣りする欠點あるも、平常着用としては適當なるが故に需要を增し、近年時代の趨勢に鑑み改良を加へ織機、柄合、意匠に就ても研究しあれば、其の面目を一新せんとする

の狀態である。

生産者　南高來郡島原町　實成チト
同　大三東町　伊達壽雄

◉古賀人形　年産額　五百圓

古賀人形は古賀村に於て製せられ、其の起源は約百五十年前の昔にありと傳ふ。頗る古雅に富むが故に、子供の玩具としてよりも寧ろ風流雅人に愛せらる。蓋し縣下に於ける農民美術の粹なるも次第に衰へつゝあるのは遺憾である。

生産者　北高來郡古賀村　小川源智

宮内省御買上
長崎特産椿油本舗
吾平椿油
熊川本店
長崎市本下町二十八番
電話二四六七番
振替一壹五壹二番

熊本縣

◉木炭（白炭、黑炭、其他）年產額　三百產圓

球磨郡を重要生產地とし、天草、葦北郡之に次ぎ、縣下各郡に生產す。由來山林に富める關係上、古より木炭製造能く行はれ、各郡に普及し相當の發達を爲せしが、近年木炭の需要の增加に伴ひ官民協力之が改善發達に努めし結果、製炭方法の改善と共に炭質の向上を來し、容量及包裝も統一し漸次發達の域に進んで居る。當業者の團體は球磨木炭同業組合の外販賣機關として產業組合一、木炭改良組合十二を設立して居る。

生產者　球磨郡大村　富田勝平

同　津呂佳次郎

◉製茶（煎茶、紅茶、番茶）年萬額　八十五萬圓　二十一萬貫

球磨郡を主要生產地とし、八代、鹿本、上益城、阿蘇其他各郡に生產す。縣下の茶業は明治初年來紅茶及磚茶の製造を奬勵し、海外に販路の擴張を圖り、爾來盛衰ありしが同四十四年以來改良綠茶の製造普及を期し、各種の改善事業を實施せし結果、長足の進步を見るに至つた。由來縣特有なる山茶の利用は農家の副業に好適の事業なれば山間部には小水力を利用して機械製茶工場を設置せしめ、又山茶畑の整理或は茶畑增

殖等に依つて、將來の發展期して俟つべきものがある。

生　産　者　熊本市新町二丁目　森本利三吉
同　坪井立町　工藤功
同　菊池郡隈府町　荒木典二
球磨郡人吉町　植田金作
同　大村　高野四米藏
同　中原村　植田喜作
同　松下吉十

◉備後表（疊表、中擂表、引通表、其他莫蓙花莚）年産額　七十一萬圓　六十一萬枚

主要生産地は八代郡とす、製莚業の起源は遠く文龜年間に創始せられ、寶曆年間藩主細川靈感公勸奬せられ。爾來農家の副業として漸次勃興し來り、明治四十年同業組合を設置して、製品の改良統一及品質の向上を圖り、生産檢査を實施し來りて今日に到る。又近年に至り原料藺草栽培技術の向上並に織機の改良、及製莚能率の增進を圖る等に努めて居る。

生　産　者　八代郡千丁村　肥後藺莚同業組合

◉七島表（琉球表）年産額　三十五萬圓　五十萬枚

主産地を飽託、宇土、下益城、八代郡で、七島表製造の起源は鎌倉時代既に創始せし如く、慶應年間藩主細川公は農業と共に副業として之を勸奬せられし結果、各郡に普及し近年製莚織機の改良、製莚技術並製品の向上を圖つて、生産能率を增進せしめ、又原料藺草の栽培、技術向上と共に、之が生産の普及を奬勵せし結果、近時優良品の生産の增加を見るに至つた。

生　産　者　飽託郡藤富村　有限責任藤富村信用購買販賣生産利用組合
宇土郡綠川村大字馬之瀨　中島長藏

◉和　紙　年産額　二十萬六千圓

縣下の和紙は玉名郡綠村、春富村、鹿本郡岩野村、廣見村、下益城郡小川町、八代郡宮地村、葦北郡吉尾村、球磨郡大村、四浦村、熊本市寺原町等を主産地とし、和紙の起源は加藤清正公領國時代元和五年高麗人、道慶、慶春の兩者を伴ひ歸りて製紙を創始せらる。爾來各地に普及し現今に至つた。由來本縣は製紙原料楮皮の生産少なからざるを以て、之が利用に依る生産の普及と製品の改良統一を圖りしかば近年に至つて紙質優良となり、漸次賣行良好なる狀況である。

生　産　者　玉名郡　玉名郡綠村製紙組合

◉竹細工　年産額　三十五萬八千圓

葦北郡日奈久町、鹿本郡菱形村、熊本市、天草郡本村、佐伊津村等を主産地とし、各郡に生産し、今日より百五十餘年前に創始せしものゝ如く、明治二十五六年頃漸次勃興し來り、近年農家の副業として奬勵の結果、各郡共逐年生産額の增加を見るに至つた。竹細工品は粗製竹籠及笊類のみなりしが、最近美篭の細工品をも奬勵せし結果、粗製細工品共に共同組織の販賣組合を設立して之が發達を圖つてゐる。

生産者　葦北郡日奈久町　日奈久竹工組合
　　飽託郡川尻町　肥後美篭共同組合

◉藁細工　年産額　三十四萬圓

主産地は飽託、下益城、八代、天草郡とし、上益城、鹿本其他各郡に生産す。藁細工は古より農家唯一の副業として行はれしものゝ如し。從つて從來自給自足を爲すに過ぎざる狀況なりしが、近年需要の增加と共に稻藁の利用を奬勵の結果、年々生産の增加を來し、莚及繩の如きは縣外へ移出するに至つた。又藁細工品の生産販賣に關しては、共同作業所又は販賣組合等を設立して、共同的經營を爲すもの漸次に增加されて居る。

生産者　上益城郡六嘉村　六嘉村製莚組合
　　八代郡植柳村大字植柳　共同作業所

◉燒杉下駄及神代杉下駄　年産額　十五萬圓

主産地は阿蘇郡南小國村とし、上益城、八代、葦北、球磨及菊池郡等に生産す、燒杉下駄製造の創始は明治二十年頃、由來阿蘇郡小國地方産の杉樹は其の質能く、下駄材に好適するを以て、同地方産の特産物として聲價を博するに至つた。然るに適々大正の初年粗製品の生産多き爲め、一時衰微せしも近年之が改良を圖り、且つ製品の統一を圖り、又杉樹材の間伐利用を奬勵の結果、農家の副業として燒杉下駄及神代杉下駄製造の漸次普及しつゝあるを見るに至つた。

生産者　阿蘇郡南小國村　佐邊謹

◉椎茸　年産額　十六萬圓

縣下球磨、阿蘇、上益城、菊地、鹿本、下益城、葦北、八代の各郡に生産す。縣下は古來自然生椎茸の生産少からざるを以て、之を採收し乾燥して販賣したるものゝ如し、殊に椎茸栽培用材多く、又栽培の適地少からざるを以て、農林業者の副業として之が人工栽培を奬勵し、且つ採收時期並乾燥貯藏方法等の改善を奬勵して、品質の向上を圖つてゐる。

生産者　球磨郡人吉町　山本末彦

◉麻　年産額　二十二萬四千圓

生産地は球磨郡を主要とす。大麻栽培の盛なるは舊藩時代相良公の奬勵せられし餘澤である。大正八年頃栽培最も盛にして年産額五十萬圓以上に達せしも、近年麻の價格底落の爲め生産額年々減少して居る、然れども球磨郡の特性として製網殊に漁網用として歡迎せられ、又製繩、麻布其他織布用として好評を受けてゐる。

生産者　球磨郡山江村　秋山大吉
同　中村甚吾
同　勝山幸藏

◉楮皮　年産額　十六萬圓

球磨郡を主要生産地とし、葦北、玉名、鹿本、八代、菊地、阿蘇、上益城、下益城其他各郡に生産す、楮樹は舊幕時代既に栽培せるものゝ如く、縣下各郡に亘り楮皮の生産を見る、殊に山間部其他に於て田畑の畦畔及河川の兩沿堤又は空地傾斜地等に栽培せらる。大正九年の如きは四十六萬圓以上に達せしも、最近楮皮の共同椽皮、品質の向上、楮皮の統一を圖りて共同販賣を奬勵されてゐる。

生産者　球磨郡人吉町
葦北郡水俣町

◉蜀黍等　年産額　十三萬圓

生産地は飽託郡小山戸島村で、熊本市之に次ぐ、縣下の蜀黍等は飽託郡小山戸島地方唯一の特産物として知らる。近年熊本市に於て傳習會を開催して製産の普及を圖り、又製品の改良統一を圖つてゐる。

生産者　熊本市楠町　中村鉄男

◉乾海苔（又ハ淺草海苔）　年産額　約十萬圓

玉名郡を主要生産地とし、宇土郡、八代郡及葦北郡の一部地方に生産す。乾海苔（淺草海苔）の製造は明治三十六年の創始にして、菊池川の流域有明海に注ぐ、海邊の干潟に海苔養殖試驗を設けし結果、有望なるを認め爾來大濱町、滑石村及高道村に於て養殖し、漉海苔を製造し、近年宇土、八代、葦北郡の一部地方に生産して居る、大正七年以來共同販賣を奬勵し、製品の改良統一を奬勵せし結果、漸次聲價を博するに至つた。

生産者　玉名郡滑石村　滑石村漁業組合
同　高道村　高道村漁業組合

◉座繰糸、玉糸、眞綿　年産額　四十八萬二千圓

主要生産地は菊池、下益城郡とし、鹿本、天草、上益城郡之に次ぎ各郡に生産す。屑繭整理は養蠶の普及發達に伴ひ、座繰製糸行はれしものゝ如し。其起源は古くより創始せるものゝ如し、座繰製糸及足踏製糸機に依り、絹糸繰糸一時隆盛に趣きしも、機

機製糸に壓倒され爲に、之に交ふるに玉糸製紙座繰製糸尙殘存するを見る。近年屑繭整理を奬勵して玉糸、座繰糸、眞綿製造技術の向上發達を圖つてゐる。

生産者　下益城郡隈庄町　成松キミ子
同　豊田村　岡村シス子

◉杞柳細工　年産額　四千圓

生産地は天草郡下浦村、本邊町である。大正十一年始めて杞柳を栽培し、同十二年より杞柳細工を創始し、爾來生産の普及を奬勵し、傍ら技術の傳習を爲さしめて居る。

生産者　天草郡下浦村　大塚龜作
同　本渡町　石井土作

◉水産物加工品　年産額　二千五百圓

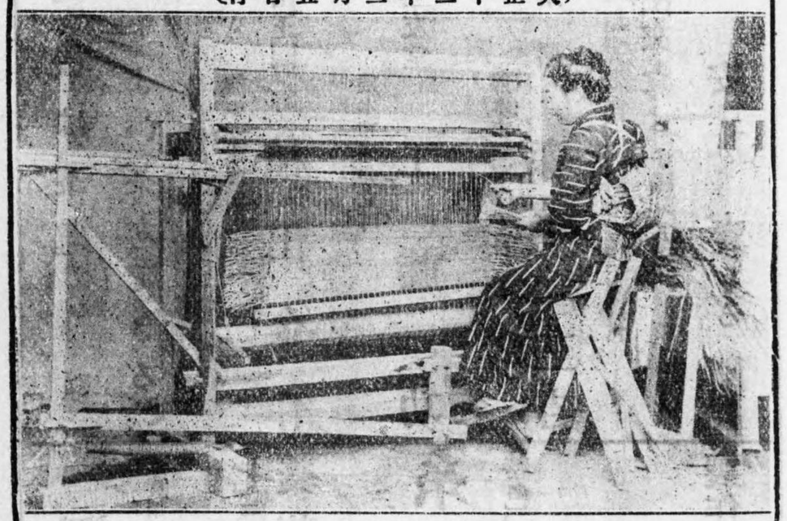
天草郡御所浦村、葦北郡津奈木村は生産地である、縣下に饒産する水産物中手繰、打瀬鯛魚獲物たる蝦及雜魚類の利用を開發の爲め、漁家及農家の副業として大正十四年度始めて之が製造を奬勵せしものにして、菓子用、酒、ビールの肴其他副食物として嗜好せられて居る。

生産者　天草郡御所浦村　奥田隆
葦北郡津奈木村　林田義人

高辻式繭莚織機

實用新案登錄第一四七三號

（大正十三年三月五日付）



本機ハ繭莚織機中ノ勝レタル點ヲ綜合シテ製作シタル機械ニシテ各部ノ運轉圓滑ナル爲メニ生産能率最モ高キ優良織機ノ定評アリ御試用ヲ乞フ

高辻式繭莚織機　一臺　價格金三十二圓

糸撚器　一臺　價格金六圓五十錢

製作所　熊本縣天草郡本渡町　高辻力太郎

肥後は茶處
よい茶ができる
熊本縣球磨郡人吉町
山王園　植田金作
熊本市坪井立町
三友堂　工藤功
熊本市新町三丁目
茶屋　森本利三吉
出來たよい茶を
安く賣る

肥後綠茶

澤田式製莚機
實用新案登錄第八八一七〇號（大正十四年四月九日）
第九一九四七號（大正十四年六月廿九日）
七島莚織機
藁莚織機兼用
價格金三十五圓（但シ驛又ハ船場渡シ）
糸撚器（疊表徑糸）價格金六圓
特色、本機ハ七島表、及藁莚兼用織機ニシテ農家副業品生産上最モ實用的機械トシテ之ヲ設備シ愛用セラル
熊本縣飽託郡藤富村大字護藤
製作所　澤田和一

大分縣

◉裏　菰　年産額　三千圓

疊用裏菰は從來自給自足の狀態なりしも、近時分業の發達に伴ひ之を農家の副業とし製造販賣するもの漸次增加し、縣内では大分郡日岡、桃園兩村を主産地とす。主として縣内需要を充たして居るが、本業が農家の副業として適切なのを認めて製品の改良增殖を圖り、廣く縣外に顧客を求めようとして目下畫策されて居る。

生産者　大分郡　大分郡農會

◉青　莚　年産額　五百萬圓

青莚（琉球表）の生産中心地は東國東、速見、大分の三郡である。今より二百七十有餘年前（寛文三年）大分市櫻町橋本五郎右衞門なる者商用を帶び薩隅遍歷の際、同地の民家に使用せる三角藺製莚の優美なるを認め、幾多の辛酸を嘗め、漸く苗數莖を得て之を竹杖の中に藏し携へ歸り、大分郡石城川村に試作せしが濫觴である。漸次速見、東國東の兩郡に普及し今や農家重要副業となつた。全國各道府縣は勿論遠く朝鮮、南滿、樺太等に販出するに至つた。

生産者　東國東郡大内村

東國東郡大内村　廣石靜眞
同　西安岐町　清原武
同　安岐町　佐藤高治
同　旭日村　一丸重雄
同　其田惠
速見郡杵築町　吉見源治
同　八坂村　藤崎作男
同　東村　荒卷勇
同　北杵築村　工藤政利
大分市　大分郡農會

◉蠶網　年産額　一萬五千圓

主産地は速見郡杵築町及之に隣接する東國東郡奈狩江である。主として京都、和歌山、長崎の三府縣に販出されて居る。

生産者　速見郡杵築町　杵築蠶網株式會社

◉蜜柑　年産額　八十萬圓

主産蜜柑の七割は津久見産である。由來津久見蜜柑の名で世に知られて居る。之が起

起原は六百六十餘年前（弘長年間）北海部郡津久見町今の酒井峯吉の祖先を濫觴である。豊州線津久見驛所在地を中心に、同郡内は勿論隣郡南海部及其他沿海數郡に普及し、前記の産額を示すに至つた。風土克く柑橘に適するから品質優秀價格低廉を特長とし、主なる販路は北九州なるも、近時朝鮮、滿洲方面へも販出するに至つた。

生産者　北海部郡津久見町　大村邑吉
同　宗庄太郎
同　高橋安太郎
同　大杉皆太郎

◉大根切干　年産額　五萬圓

縣は大正十一年始めて之が奬勵を試み僅々三ヶ年で前記の産額を示すに至つた。主なる販路は縣内なれども、近時關門市場に認められて相當の數を販出されて居る。

生産者　大野郡柴原村　足立重正

◉甘藷飴　年産額　五萬圓

北海部郡沿海各村に亙り生産するが、一尺屋村が主産地である。由來甘藷栽培は年々産額を增加し、現今は縣内並に隣縣宮崎、福岡、熊本の諸縣に販出するに至つた。

生産者　北海部郡一尺屋村　津田三彦

◉落花生　年産額　十萬圓

落花生は縣内各地に生産するも、主産地は西國東郡吳崎村で、總産額の八割を占め、風土良く該作に適し、栽培亦容易なれば年々生産額を増加し、縣内では別府市、縣外では大阪、門司、八幡の各都市に販出されて居る。

生　産　者　西國東郡吳崎村　田中才助
同　廣崎藤平
同　古本恭助

◉勝栗　年産額　二千石　千二百萬圓

縣下の栗實は從來殆ど全部を煮食用として販賣せしも、之を勝栗と爲せば貯藏及輸送上有利なるを認め現今前記の生産を見るに至り目下縣内各市街地に販出されて居る。

生　産　者　玖珠郡八幡村　山口禮藏

◉竹　箸　年産額　一萬五千圓

竹箸の主産中心地は別府市で、内地各府縣に顧客を有して居る。

生　産　者　別府市小川町　手島森太郎

◉味噌漉　年産額　三萬圓

味噌漉の生産も中心地は別府市なるも、本業の製作に大したる技術を要せざれば農村各所に之が生産を見、大部分は別府市に於て集散し全國各府縣に仕向けられて居る。

生　産　者　別府市字朝見　堀川源八
同　小野實藏

◉文化ナイフ　年産額　一萬二千圓

文化ナイフは速見郡朝日村（鐵輪温泉所在地）を中心に、現今前記の産額を示すに至つた。然して本器は彼の消毒箸と同樣極めて衞生的なので、年々需要を増加し全國各都市に販出されて居る。

生　産　者　速見郡朝日村　直江忍

◉魚　籠　年産額　六百圓

本器は各家庭に必ず一個を備ふべき厨庖の重要器具なるも、未だ其程度に進化せず其産額は少額なるも縣内各市街地魚商、料理屋、飲食店、旅館等に販賣されて居る。

生　産　者　別府市　佐藤廣吉

◉水タラシ　年産額　三萬圓

水タラシは長方形なると、正方形なると其形を異にして居るが、用途は全く同一で、炊事用至便の器具である。別府市を中心に農漁村家庭副業として漸次生産を増加し、主として大阪、廣島を顧客とせしが近年朝鮮方面へも販出するに至つた。

生　産　者　別府市御幸町　佐藤憲一郎
同　佐藤好藏

◉風呂バケツ　年産額　五千圓
別府市を中心に生産す、本器は婦女子入浴用に必要品で、價格低廉、使用輕便、耐久力亦強きを以て年々顧客を增加し、全國各都市に販出されてゐる。
生　産　者　別府市字朝見　糸永幸太

◉飯　籠　年産額　三萬圓
夏季の家庭食堂用必須器具としての飯取籠は、別府市を中心に三萬個三萬圓を產し、內地各府縣に販出されてゐる。
生　産　者　別府市秋葉通　佐藤弘
同　蓮田町　首藤賴邦

◉買物籠　年産額　二萬五千圓
縣下別府市を中心に生產する買物籠は使用輕快、價格低廉なるを特長とし、年々顧客を增加し、內地各府縣に販出されてゐる。
生　産　者　別府市字濱脇　手島森太郎

◉鉢掛籠　年産額　一萬圓
本器も別府市を主產地とし、年々前記の產額を擧げ、保健上並に家庭厨庖重要器具で、衞生思想の向上と共に年々顧客を增加し、目下縣內は勿論全國各地に販出されてゐる。
生　産　者　別府市蓮田町　油布郁馬

◉酢飯卷簾　年産額　一萬圓
別府市を中心に附近農家の家庭副業として生產するもので、主として料理屋、飲食店、旅館に販賣せしも、近時一般家庭にも用ひられ、年々生產增加の傾向である。
生　産　者　別府市蓮田町　油布郁馬

◉炭取籠　年産額　一萬圓
炭取籠も別府が中心である。從來の木製品に比し使用輕便なるを特長とし、年々需要增加し、縣內及主に廣島、大阪の兩市又は全國各府縣に販出されて居る。
生　産　者　別府市下野口　西中清吉

◉下　駄　年産額　一萬三千圓
桐下駄は仙臺に桐材の薄片を塗着せしもので、桐材の廢物を利用し、杉下駄は土地柄材料豐富なる杉材で製作し、藥品にて着色し且つ天燒と爲し研き揚げしもの、又塗下駄材をトノコ地と爲し着色せしもので、何れも縣下日田郡獨特の副業品である。販路は內地各地は勿論、朝鮮、滿州、臺灣及支那方面仕向けられてゐる。